

履修の手引き 2023



日本医療大学

Japan Healthcare University

建学の精神

共生社会の実現

～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、
その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～

基本理念

人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、
学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、
医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、
高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、
人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します。

教育理念

1. 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
2. 「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
3. 「確かな専門知識・技術を修得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する。
4. 「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。
5. 「問題解決能力を身につけよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する。

■シンボルマーク



日本医療大学がめざすのは、人間力のある医療人を育てること。大学での学びを通して、
人の心を大切にできる、思いやりのある人を次々と生みだし、
それが、世の中の力になっていく。このイメージをロゴマークにしました。
人を想うハートを芯に置き、そこから伸びる大きな翼で、
世界に向けて羽ばたいていく様子を実現しています。
用いたのは、伸びやかで優しく柔らかい印象の曲線と、
幸せや喜びを象徴し知性を感じさせる色。
このロゴマークのもと、これからの医療を担う人材を育んでいきます。

履修の手引き 2023

目次

I 履修について

1. 授業科目の区分	1
2. 単位について	1
3. 履修について	2
4. 試験について	4
5. 進級・卒業要件	6
6. 成績評価とGPA制度について	9
7. 成績評価についての疑義申し立て	9

II 保健医療学部

II-1 看護学科	12
1. 概要	12
2. 履修について	16
3. 単位修得について	17
4. 履修科目について	18
5. 卒業要件について	19
6. 先修要件	19
履修科目一覧	20
カリキュラムマップ	22
II-2 リハビリテーション学科	23
1. 概要	23
2. 履修について	26
3. 単位修得について	27
4. 履修科目について	28
履修科目一覧	32
カリキュラムマップ	36
II-3 診療放射線学科	38
1. 概要	38
2. 履修について	41
3. 単位修得について	42
4. 履修科目について	43
履修科目一覧	45
カリキュラムマップ	48

Ⅱ - 4	臨床検査学科	50
1.	概要	50
2.	履修について	53
3.	単位修得について	54
4.	履修科目について	54
	履修科目一覧	56
	カリキュラムマップ	58
Ⅱ - 5	臨床工学科	59
1.	概要	59
2.	履修について	62
3.	単位修得について	63
4.	履修科目について	64
	履修科目一覧	66
	カリキュラムマップ	68
Ⅲ	総合福祉学部	
Ⅲ - 1	総合福祉学部	
1.	概要	72
	介護福祉マネジメント学科の概要	74
	ソーシャルワーク学科の概要	78
2.	履修について	81
3.	単位修得について	82
4.	履修科目について	83
	介護福祉マネジメント学科	83
	カリキュラムマップ	87
	ソーシャルワーク学科	89
	カリキュラムマップ	93
Ⅳ	教育課程進捗表	
	保健医療学部	
	看護学科教育課程進捗表	96
	リハビリテーション学科教育課程進捗表	98
	診療放射線学科教育課程進捗表	102
	臨床検査学科教育課程進捗表	104
	臨床工学科教育課程進捗表	106
	総合福祉学部	
	介護福祉マネジメント学科教育課程進捗表	108
	ソーシャルワーク学科教育課程進捗表	110

I 履修について

1. 授業科目の区分

授業には、講義、演習、実験・実習などの種類があります。

講義	主に教員が中心となり進める授業です。資料などを取り入れ進めていきます。
演習	技術などを修得するために、例題や課題を通して、学生と教員が共同して進める授業です。主体的な学修が求められます。
実験・実習	学生自身が中心となり、取り組む授業活動です。学内の実験室・実習室や学外の実習施設で行います。

2. 単位について

1) 単位制度について（学則第 28 条：キャンパスガイド P73）

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1 単位とは、学生が 1 科目について行う 45 時間（2 単位は 90 時間）の学修活動を意味し、その学修活動とは授業と事前・事後学習からなります（詳細はシラバス参照）。授業時間だけではなく、事前・事後学習として、予習・復習を行う必要があります。

〈1 単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15 時間～30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位
実験・実習	30 時間～45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位
1 つの授業科目の中に講義、演習、実験・実習のうち、2 つ以上を併用	組み合わせに応じ、30 時間～45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位

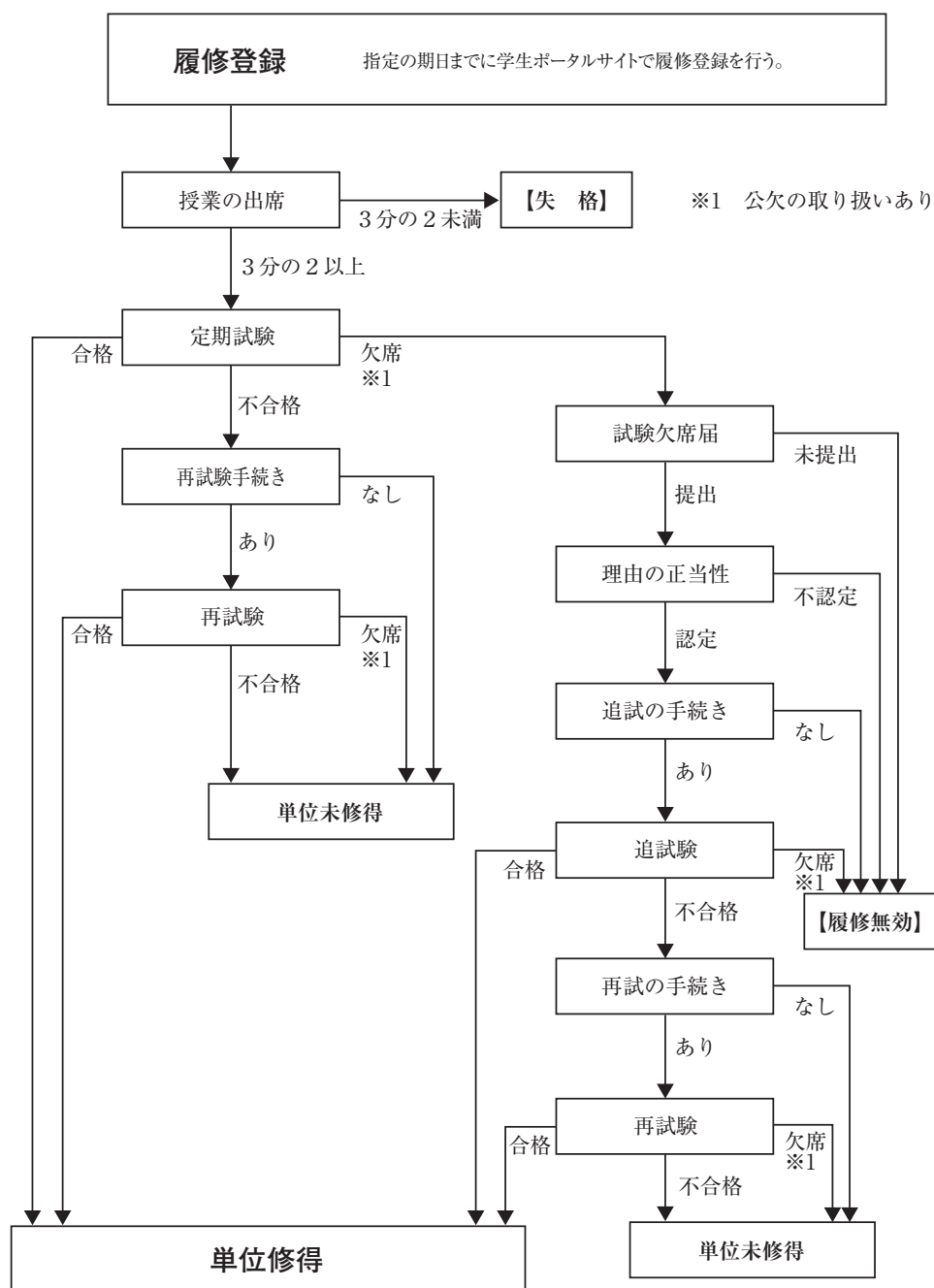
2) 単位の「修得」について

「履修登録」した科目の出席時間数を満たし、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

3. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録するにあたり、『履修の手引き』・『キャンパスガイド』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読のうえ、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

履修登録から単位修得までのフローチャート



【特記事項】

必修科目で不合格または履修無効で単位未修得の場合は、1年次から2年次、2年次から3年次への進級に限り、不合格または履修無効となった必修科目1科目のみ有して進級する「仮進級」の申請をすることができます。詳しくは7Pを確認してください。なお、失格した科目は、該当しません。

1) 履修登録スケジュール

履修登録・確認および履修登録変更のスケジュールは以下のとおりです。

●保健医療学部 看護学科／リハビリテーション学科／診療放射線学科／臨床検査学科／臨床工学科

項 目	期 間		手続きについて
履修登録 期間	前期	2023 年 4 月 5 日（水）～11 日（火） ※履修登録期間に前期と後期全ての科目を登録します。	各学年のガイダンス等で履修登録の方法等を説明します。
履修登録 変更期間	前期	2023 年 4 月 13 日（木）～17 日（月）	詳細については、必ずポータルサイト ^{※1} の掲示版を確認してください。
	後期	【リハビリテーション学科】 2023 年 9 月 14 日（木）～19 日（火） 【看護学科／診療放射線学科 1・2 年／臨床検査学科／臨床工学科】 2023 年 9 月 27 日（水）～29 日（金） 【診療放射線学科 3・4 年】 2023 年 10 月 4 日（水）～6 日（金）	
履修登録 確認期間	前期	2023 年 4 月 20 日（木）～21 日（金）	変更は受け付けません。
	後期	【リハビリテーション学科】 2023 年 9 月 22 日（金）～25 日（月） 【看護学科／診療放射線学科 1・2 年／臨床検査学科／臨床工学科】 2023 年 10 月 5 日（木）～6 日（金） 【診療放射線学科 3・4 年】 2023 年 10 月 12 日（木）～13 日（金）	

●総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科／ソーシャルワーク学科

項目	期間		手続きについて
履修登録 期間	前期	2023 年 4 月 5 日（水）～11 日（火） ※履修登録期間に前期と後期全ての科目を登録します。	各学年のガイダンス等で履修登録の方法等を説明します。
履修登録 変更期間	前期	2023 年 4 月 13 日（木）～17 日（月）	詳細については、必ずポータルサイト ^{※1} の掲示版を確認してください。
	後期	2023 年 9 月 27 日（水）～29 日（金）	
履修登録 確認期間	前期	2023 年 4 月 20 日（木）～21 日（金）	変更は受け付けません。
	後期	2023 年 10 月 5 日（木）～6 日（金）	

※1：ポータルサイトとは、本学が利用するシステムの UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサルパスポート）のことです。

2) 履修の上限単位（CAP 制）

本学では、1 単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、各学年ごとで適切に学修できるように、履修登録科目数の上限制度である CAP（キャップ）制を導入しています。1 年間に履修することのできる授業単位に制限があるため、履修計画を立てる際には注意が必要です。

CAP 制は、各学年において次のように定めています。

■保健医療学部

○看護学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	45 単位
2 年	40 単位
3 年	31 単位
4 年	18 単位

○リハビリテーション学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	47 単位
2 年	41 単位
3 年	37 単位
4 年	21 単位

○診療放射線学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	47 単位
2 年	37 単位
3 年	36 単位
4 年	25 単位

○臨床検査学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	45 単位
2 年	36 単位
3 年	37 単位
4 年	28 単位

○臨床工学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	48 単位
2 年	45 単位
3 年	38 単位
4 年	29 単位

■総合福祉学部

○介護福祉マネジメント学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	45 単位
2 年	45 単位
3 年	45 単位
4 年	45 単位

○ソーシャルワーク学科

学年	1 年間の上限 (2022 年度以降の入学生)
1 年	45 単位
2 年	45 単位
3 年	45 単位
4 年	45 単位

3) 履修上の注意点

- *すでに単位を修得している科目を重複して履修することはできません。
- *授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- *各学年において、上級学年の授業科目を履修することはできません。

4) 履修登録時の注意点

履修登録は、ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」を利用し、手続きを行います。

システムへのログインには、入学時に配布するログイン ID およびパスワードが必要です。

また、履修登録が完了した後は自分の確認用に 1 部印刷し、大切に保管してください。

※履修登録は、必ず本人が行い、履修登録方法や履修に関する相談は、必ず事務局窓口で行ってください。

なお、電話やメールでの問い合わせには応じません。

※ID・パスワードを忘れたときは、事務局で確認してください。

5) 履修登録変更期間について

履修登録の内容を誤ったときや、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていたとき、もしくは履修計画を見直した結果、履修科目を変更したいというときは、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。

履修登録変更の手続きについての詳細は学生ポータルサイトで周知します。

6) 履修登録確認期間について

自分が履修登録した科目を確認してください。なお、変更したい科目があっても追加や取り消しは一切認められないので、必ず履修登録変更期間までに誤りがないかを確認し手続きを行ってください。

7) 既修得単位認定の取り扱い

学則第 32 条（入学前の既修得単位の認定）：キャンパスガイド P73 参照

（学生が入学する前に大学または短期大学で修得した単位の認定のこと）

4. 試験について

試験には定期試験・追試験・再試験・実技試験等があります。

1) 受験資格

試験を受験できる資格は次の条件を満たしていることが前提となります。

- (1) 履修登録が済んでいること
- (2) 出席時間数が授業時間の 3 分の 2 以上を満たしていること
(例えば、1 単位 8 回の授業では、6 回以上の出席が必要です)
- (3) 授業料その他の入金を所定の期日までに納めていること
- (4) 所定の試験時間（試験開始後 20 分まで）に試験室に入室していること
- (5) 学生証または仮学生証を持参していること

2) 定期試験

定期試験は原則、各学期末に行います。ただし、授業科目によっては、随時授業の中または試験期間外に試験を行うことがあります。

3) レポート

試験扱いとなるレポートが課されるときもあります。期限までに提出することができなければ「無効」となり、単位が修得できなくなります。

4) 追試験

定期試験に欠席し、その欠席理由が正当と認められたときに受験できます。

定期試験を欠席したときは、すみやかに「欠席届」に記入し、証明書もしくは証明できるものなどを添えて、事務局に提出してください。追試験が認められた場合は、定められた期間内に「追試験願」の手続きが必要となります。なお、追試験は1科目につき「1,000円」の手数料が必要となります。

欠席事由	欠席事由を証明する書類等
本人の傷病、学校感染症	医師の診断書等（受験できなかった理由、期間が記載されているもの）ただし、行政機関等から外出自粛を要請されている場合を除く
忌引き	会葬礼状等の印刷物
不慮の事故	事故を証明できる書類等
親族（三親等以内）の重大事象	医師の診断書またはそれに代わるもの
災害	罹災証明書等、災害の状況が把握できる書類
公共交通機関の遅延・連休	公共交通機関が発行する遅延証明書等
裁判員制度に基づく要請	裁判所からの通知書等
部活動等における学生代表または大会参加等	証明書等および大会等の内容がわかる書類
大学で指定した資格試験	資格試験の受験票
就職試験、進学試験	企業、施設等の場所・日時が明記され、受験者であることを証明できるもの
上記の内容に該当しないが、それにかわる正当な理由と考えらえる事項	事実を証明できる印刷物等

※やむを得ない事情でこれらの書類等を提出できないときは、親族による証明書等にかえることができる。

※追試験願の提出に当たっては、代理人による提出を妨げない。

5) 再試験

定期試験または追試験の結果が60点未満の学生は、**授業科目の担当教員が再試験を認めたときに限り**、再試験を受験することができます。ただし、すべての科目に再試験が認められるとは限りませんので注意が必要です。

再試験が認められた場合は、定められた期間内に「再試験願」の手続きが必要となります。なお、再試験は1科目につき「2,000円」の手数料が必要となります。再試験に合格した者の評点は60点となります。

6) 失格

履修登録した科目に定められた授業回数の3分の2以上の出席に満たず、定められた試験等を受験する資格がないことを「失格」といいます。

7) 履修無効

定期試験または追試験を欠席したときは、所定の手続きをしなければ「履修無効」となります。

8) 試験に関する留意事項

試験を受けるときは、試験を受ける教室を事前に確認し、次の内容に留意して受験してください。

- ①試験開始時は、学生証を所持し、必ず机上に提示してください。
※当日、学生証を忘れたときは、自動証明書発行機で「仮学生証（仮身分証明書）（400 円）」を購入し、事務局に申し出てください。
※学生証または「仮学生証（仮身分証明書）」を所持していない場合は、試験を受けることができませんので注意してください。
- ②試験を受ける教室への私物の持ち込みは最小限としてください。
- ③座席が指定されていますので、指示に従ってください。
- ④試験開始前には携帯電話の電源を切ってください。
- ⑤机の上には筆記用具、時計（スマートウォッチ・計算機能付きは不可）、指定されたもの以外は置かないでください。
※風邪や鼻炎などでティッシュペーパーを使用するときは、中身のみを机の上に準備してください。
- ⑥試験での使用を許可されたもの以外は、鞆の中、それに代わるものの中に入れて椅子の下に置いてください。机の下に置くことは誤解を招くことになりますので、注意してください。
- ⑦試験中は、監督者の指示に従い、他の受験者の迷惑にならないように注意してください。
- ⑧遅刻入室は試験開始後 20 分まで認められます。20 分経過後は受験することができません。
- ⑨試験中に具合が悪くなった場合や、やむを得ずトイレを希望する場合は挙手で知らせてください。教員が同行し、誘導します。
- ⑩試験中の退室は 30 分経過後から終了 10 分前まで認められます。再入室は認めません。
- ⑪退室時の試験の解答用紙については、原則、裏側に伏して退室しますが、担当科目の試験監督者の指示に従って提出してください。
- ⑫その他、試験室においては、試験監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない場合は、退室を命じられることがあります。

9) 不正行為の取り扱い

試験における不正行為は、学生の本分に反する行為であり、学生としての倫理に欠ける行為です。試験において、**不正行為があったときには、当該科目並びに当該試験期間中の全科目を無効とします**。これは、不正行為をした者とそれに便宜を与えた両者に適応されます。また、懲戒処分の対象となります。

〈不正行為とみなされる具体例〉

- ①使用が許可されていない披見物等を使用する行為
- ②カンニングペーパーおよびカンニングペーパーに類似するメモなどを使用する行為
- ③使用を許可された所持品や机などの物品に、解答に関する内容を書く行為
- ④試験中に文献およびカンニングペーパーに類似するメモなどの貸し借りをする行為
- ⑤他の学生の答案を盗み見る行為
- ⑥他の学生に答案を見せる、または、他の学生の答案を写させてもらう行為
- ⑦試験内容に関する私語や動作をする行為
- ⑧その他、上記以外の行動で不正を疑われる行為

5. 進級・卒業要件

1) 進級要件

(1) 進級

進級するためには学年ごとに修得する必要がある全必修科目の単位修得が必要です。進級の可否についての判定は毎年 3 月に行います。

(2) 留年

失格、履修無効または不合格となり単位未修得となった必修科目があった場合、次年度は同一学年に留まる「留年」となります。留年の場合は同一学年に留まり、もう一度履修しなおす「再履修」を行います。

「再履修」とは、当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修登録し、授業に出席することです。

(3) 仮進級

1 年次から 2 年次及び 2 年次から 3 年次に限り、不合格または履修無効となった**必修科目 1 科目のみ**有して進級する「仮進級」の申請をすることができます。認められた場合は、翌年度の前期定期試験終了後に実施する仮進級者試験を受験することができます。なお、失格した科目は、該当しません。また、実習の実施期間に応じて前期期間中に仮進級者試験を実施する場合があります。

仮進級者試験について

1 年次から 2 年次
2 年次から 3 年次



必修科目 1 科目のみ仮進級の申請が可能
不合格者・履修無効者は可 失格者は不可

開講講義の出席時間数の 2/3 を満たさない者⇒失格 (F)
定期試験 未受験者⇒履修無効 (M)
定期試験 不合格者⇒不合格 (D)

不合格科目の
単位取得について

講義出席：必要ない

* 不合格科目の聴講を妨げるものではない（聴講可能な場合）

仮進級学年の前期定期試験終了後



仮進級者試験を受験
(有料：再試験手数料に同じ)



合格者：仮進級学年の進級が認定
※不合格者：次年度仮進級学年に**留年**

※【重要】仮進級制度は、実習の先修要件となっている科目で、仮進級者試験で不合格となった場合は、通常の留年よりも卒業までに時間を要す場合があります。したがって、実習の先修要件を確認したうえで制度利用を検討してください。

* 仮進級者試験の成績判定は「C」となる

2) 臨地・臨床実習科目の先修要件

臨地・臨床実習に係る実習科目には進級要件に加えて実習毎に設定された科目の単位修得を必要とする「先修要件」を満たしていなければ履修ができません。各科目の先修要件の詳細は入学年度の履修規程を確認してください。

学部	学科	先修要件のある科目
保健医療学部	看護学科	基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、精神看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、地域・在宅看護学実習、統合実習
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ（2019 年度入学生から）
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ（2019 年度入学生から）
	診療放射線学科	早期臨床実習 臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ
	臨床検査学科	臨地実習
	臨床工学科	臨床実習
総合福祉学部	介護福祉マネジメント学科	介護実習Ⅰ型基礎、介護実習Ⅱ型基礎、介護実習Ⅰ型応用、介護実習Ⅱ型応用
	ソーシャルワーク学科	ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）

3) 卒業要件

本学を卒業するためには、4年以上在学し、学部学科ごとに次の表に示す単位を修得しなければならない。

(注) 年度は、適用となる教育課程の改正年度を示す

■保健医療学部

○看護学科の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	11単位	24単位	69単位	104単位
	選択科目	15単位以上	4単位以上	2単位以上	21単位以上
	小計	26単位以上	28単位以上	71単位以上	125単位以上

○リハビリテーション学科理学療法専攻の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	12単位	37単位	60単位	109単位
	選択科目	12単位以上	2単位以上	3単位以上	17単位以上
	小計	24単位以上	39単位以上	63単位以上	126単位以上

○リハビリテーション学科作業療法専攻の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	12単位	37単位	63単位	112単位
	選択科目	12単位以上	2単位以上	2単位以上	16単位以上
	小計	24単位以上	39単位以上	65単位以上	128単位以上

○診療放射線学科の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	12単位	31単位	62単位	105単位
	選択科目	8単位以上	8単位以上	7単位以上	23単位以上
	小計	20単位以上	39単位以上	69単位以上	128単位以上

○臨床検査学科の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	10単位	23単位	85単位	118単位
	選択科目	10単位以上	—	—	10単位以上
	小計	20単位以上	23単位	85単位	128単位以上

○臨床工学科の卒業要件

2023年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	10単位	46単位	68単位	124単位
	選択科目	8単位以上	4単位以上	2単位以上	14単位以上
	小計	18単位以上	50単位以上	70単位以上	138単位以上

■総合福祉学部

○介護福祉マネジメント学科の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	12単位	10単位	8単位	30単位
	選択科目	12単位以上	30単位以上	52単位以上	94単位以上
	小計	24単位以上	40単位以上	60単位以上	124単位以上

○ソーシャルワーク学科の卒業要件

2022年度以降 入学生	科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
	必修科目	12単位	31単位	18単位	61単位
	選択科目	12単位以上	21単位以上	30単位以上	63単位以上
	小計	24単位以上	52単位以上	48単位以上	124単位以上

6. 成績評価とGPA制度について

1) 成績評価とGPについて

成績評価については、90点以上を「AA」の「秀」、80点以上を「A」の「優」、70点以上を「B」の「良」、60点以上を「C」の「可」、60点未満を「D」の「不可」の5段階の評語をもって表しています。

また、GP (Grade Point) は、「AA」は4.0、「A」は3.0、「B」は2.0、「C」は1.0、「D」は0.0です。

評点	区分	成績評語		GP	基準
100～90点	合格	AA	「秀」	4.0	履修目標を超えたレベルを達成している
89～80点		A	「優」	3.0	履修目標を達成している
79～70点		B	「良」	2.0	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
69～60点		C	「可」	1.0	到達目標を達成している
59点以下	不合格	D	「不可」	0.0	到達目標を達成していない
—	失格	F	「出席不足」	0.0	
—	無効	M	「試験未受験」	0.0	
認定科目	合格	N			
※特例：判定が困難な場合に限り、必要に応じて採用	合格	P		GPAに含まない	
	不合格	D*			

2) GPA制度の概要について

GPA制度について

GPA (Grade Point Average) とは、アメリカなどで一般的に行われている学生の成績評価方法のひとつであり、履修科目の成績の1単位あたりの成績平均を数値で表すもので、日本でもこの制度を導入する大学が増えています。学生へのGPAの通知は、成績確認表により行います。GPAの結果を学生自らが確認し、自分の履修計画の点検材料として積極的に活用してください。

なお、大学としてはGPAを成績順位の資料として活用し、卒業時の表彰等の選考に用います。また、GPAが低い（＝成績評価が低い）学生に対して、今後の履修計画等に関する修学指導の材料とします。

GPA (Grade Point Average) とは、履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GPに該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出します。計算結果は小数点第3位を四捨五入して表記します。

【GPA計算例】 $GPA = 26.0 \div 9 = 2.89$ (小数点以下第3位を四捨五入)

科目名	単位数	成績評価	GP	GP×単位数
〇〇科学	1	C	1.0	1.0
〇〇倫理	1	A	3.0	3.0
〇〇概論	2	AA	4.0	8.0
〇〇学実習 I	4	A	3.0	12.0
〇〇ゼミナール I	1	B	2.0	2.0
合計	9			26.0

7. 成績評価についての疑義申し立て

当該期の成績で、採点の誤記の可能性やシラバスで周知されている成績評価の方法等から疑義のある者は、試験等の可否、成績評価についての疑義申し立てをすることができます。「成績評価確認願」に必要事項を記入し、事務局に提出してください。ただし、申し立てを受け付ける期間は、各試験の可否が掲示された日を含め3日以内（土・日・祝を除く）、成績発表日を含め5日以内（土・日・祝を除く）とします。学科、学年によってはこの問い合わせ期間に変更が生ずることもあります。

Ⅱ 保健医療学部

Ⅱ-1 看護学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4. 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
4. 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
5. 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

看護学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
2. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
3. 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4. 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

2) 教育目標

【教育目標—育成する人材像】

本学の教育理念および教育目的を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた看護師を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした援助の人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

看護学は、「人間と健康」という人間存在の本質に深く取り組む学問です。本学科における看護学教育は、人間が生きること、人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人々の健康の保持・増進と健康障害を持つ人への生活を支援する専門職業人としての看護師を育成することを目指しています。

本学のカリキュラムは、ヒューマンケアを理念に看護を実践の科学として位置づける看護学の概念枠組みとして、「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの基本概念からなる教科目で構成されています。各領域の中心的概念は、以下のとおりです。

「人間」：看護の対象である人の理解

(命の尊厳、人権擁護、多様な価値観、全人的理解)

「環境」：人の健康と環境との関係、環境と看護の関係

「健康」：看護の対象は各発達段階にいる人のあらゆる健康レベル

「看護」：すべての保健医療福祉システムにおける看護

看護学科では、開学時の2014年以降、2018年度、2019年度、2020年度、2022年度にカリキュラムを変更しています。2023年度入学生は2022年度カリキュラムに基づいて授業を行います。

(2) 教育課程の編成（授業科目構成）

教育課程の編成は、看護の対象である「人間」を理解するために必要な知識、学生の人間的成長に必要な知識を学ぶ「基礎教育科目」、看護学に不可欠な保健医療福祉の基礎知識を学ぶ「専門基礎教育科目」、看護学の知識・技術を学ぶ「専門教育科目」の三領域で編成しています。

カリキュラムの各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が理解できるように、内容の順序性と連続性、関連性を重視し、教育科目の開講年次および前期、後期への配分についても、これらのことを十分に考慮して配置しています。

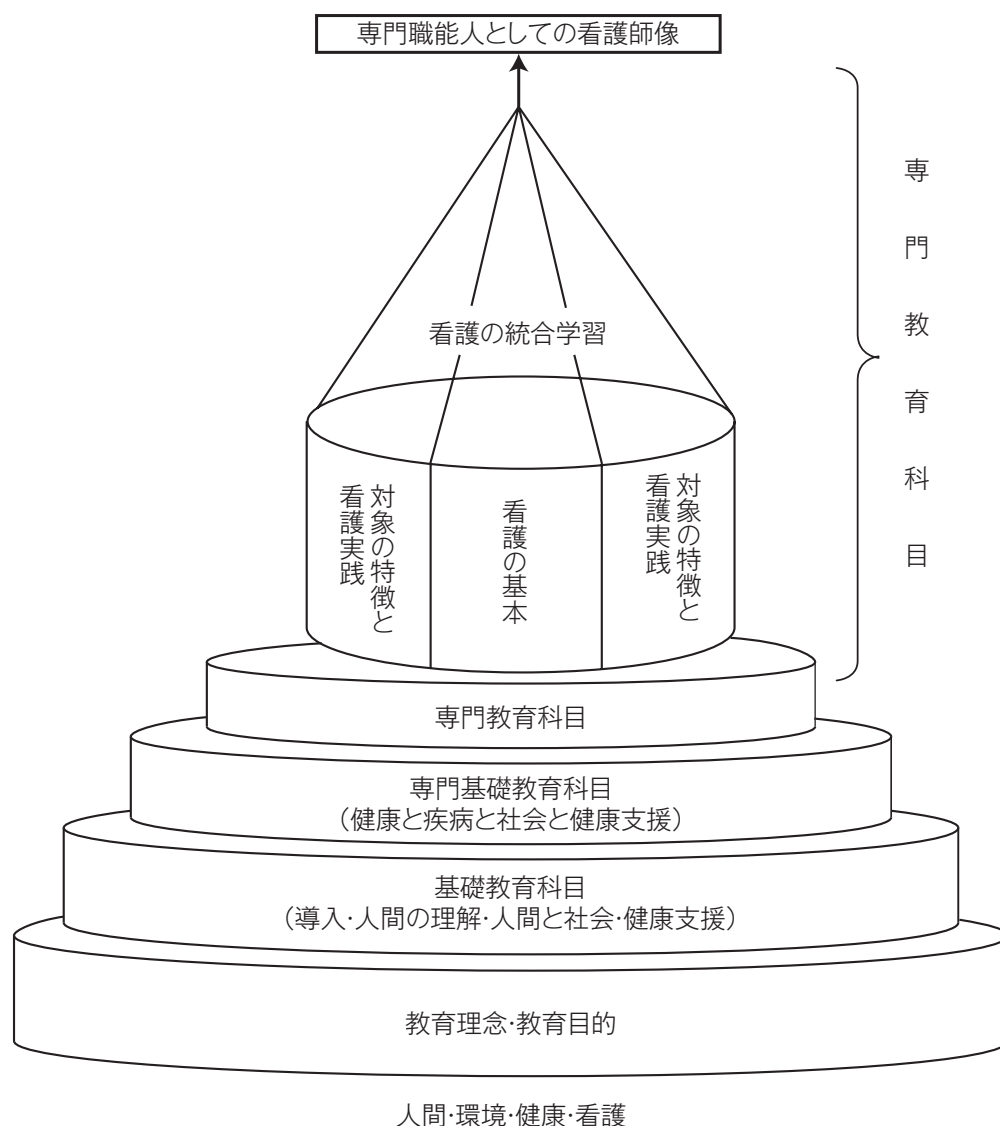


図 専門職養成に至る看護教育課程

（３）教育課程の進行に関する基本的な考え方

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

看護学は、「人間と健康」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、看護師として必要な専門的知識・技術・態度はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」を関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を１年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形に配置しています。

② 学年の特徴

１年次では、「基礎教育科目」を多く配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、１年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

２年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

３年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

４年次では、３年次までの学修に加え、さらなる実習で看護の領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

また、看護学における知識・技術・態度を段階的に学ぶために、対象である人を「個人→集団」、健康レベルを「健康→健康障害」、看護の場を「施設→在宅」と段階的に向かうように編成しています。

③ 看護学実習

看護学は実践の科学であり、そのために必要な「看護学実習」には多くの時間を割いています。「看護学実習」では、看護職としての倫理的態度を基盤に、既習の知識と技術を活用して看護の実際を学びます。また、看護学実習の体験から、看護の現象を意味付け、看護の知として学ぶ学修でもあります。いずれも当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

④ 主体的学修

４年次に、学生が主体となって、学修のまとめをする授業科目として「看護ゼミナール」を配置しています。教員の指導の下、学生が各学年の学修のまとめをとおして、学修の達成度と課題を明確にするとともに、学生相互で学修しあうことを目的としています。学生一人一人の成長を教員が丁寧に指導していきます。

2022年度カリキュラムの構成と年次進行はカリキュラムマップ（22ページ）を参照してください。

2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。CAP制は、各学年において次のように定めています。

〈各学年での1年間の履修単位の上限〉

学 年	1年間の上限 (2022年度以降カリキュラム)
1 年	45単位
2 年	40単位
3 年	31単位
4 年	18単位

2) 履修登録スケジュール

履修登録のスケジュールは該当年度の「履修の手引き」等で確認してください。

3) 履修登録変更期間について

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情による所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の「履修の手引き」及び学生ポータルサイトで通知されます。

4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。履修の手引きとシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

1年次4月の段階で4年間の履修計画を立案し、1年1年の学修の積み重ねによって、堅実に単位を修得していきましょう。

3. 単位修得について

1) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と事前・事後学習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や事前・事後学習等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業単位数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習または実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を1単位としています。

2) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

3) 卒業要件総単位数（2022年度以降入学生）

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	11単位	24単位	69単位	104単位
選択単位	15単位以上	4単位以上	2単位以上	21単位以上
小計	26単位以上	28単位以上	71単位以上	125単位以上

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない「必修科目」と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる「選択科目」を履修します。

1) 基礎教育科目

「導入」：大学での学修に不可欠なスタディスキルについて学びます。

「人間の理解」：人間の命の尊厳や多様な価値観を尊重する態度を学び医療人としての心構えを養います。

「人間と社会」：看護の対象である人間を社会や文化という視点から、人と人との関係性、社会の仕組みや制度、文化の影響などを学びます。

「生活と情報」：看護の対象である人間を生活者としての視点から理解し、科学的なものの見方や考え方を学ぶとともに、論理科学的な学問思考を修得します。

「語学」：語学学修をとおして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目

「健康と疾病」：看護学を学ぶ上で必修の基礎的知識である人の健康と疾病の成り立ち、および回復の促進に関する概要を学びます。

「社会と健康支援」：病院、施設、地域における集団の健康について学び、保健医療福祉チームにおける看護師の役割の多様性と必要なスキルについて学びます。

3) 専門教育科目

「看護の基本」：「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの基本概念に関連付け、看護学の基礎となる知識、技術・態度を中心として、看護実践の具体的な展開に要する基本的な考えを学修します。

「対象の特徴と看護実践」：看護の対象を成人、老年、小児、母性の各発達段階及び精神疾患、地域住民や集団、在宅療養者に特徴付け、対象が必要とする看護援助を論理的思考に基づきアセスメントし、個別性のある看護援助を計画的に実践するプロセスを学びます。また、「概論」で看護の対象の特徴、「援助論」で具体的な看護援助プロセスと技術を学び、理論と実践を統合した「臨地実習」で看護援助を計画的に実践し評価する過程を学びます。

「看護の統合学習」：病院施設において、看護援助の優先度や時間配分の必要性、メンバーシップ、リーダーシップ、リスクマネジメントや他職種との連携・協働をとおして、最終段階としての実習を学びます。

また、4年次の「看護ゼミナール」では、主体的な学修を前提とし、既修の知識と技術を統合し、学修目標の達成度を確認し、今後の学修課題を明確にする時間として有効に活用します。

5. 卒業要件について

卒業に必要な履修単位は以下の通りです。

科目区分		2022年度以降カリキュラム	
		必修科目	選択科目
基礎教育科目	導入	1 単位	－
	人間の理解	4 単位	2 単位以上
	人間と社会	－	6 単位以上
	生活と情報	3 単位	5 単位以上
	語学	3 単位	2 単位以上
専門基礎教育科目	健康と疾病	18 単位	－
	社会と健康支援	6 単位	4 単位以上
専門教育科目	看護の基本	15 単位	－
	対象の特徴と看護実践	45 単位	－
	看護の統合学習	9 単位	2 単位以上

6. 先修要件

臨地実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める先修要件を満たしていなければならない。

〈看護学科〉2022年度以降入学生

臨地実習科目	先 修 要 件
初期実習	なし
基礎看護学実習Ⅰ	看護学概論、看護の基本技術論、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲの単位を修得していること
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ、看護ヘルスアセスメント論の単位を修得していること、及び看護過程論の単位を修得見込みであること
成人看護学実習Ⅰ	成人看護学概論、成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲの単位を修得していること
成人看護学実習Ⅱ	成人看護学実習Ⅰの単位及び、成人看護援助論Ⅰ、成人看護学特論の単位を修得していること
老年看護学実習Ⅰ	老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱの単位を修得していること
老年看護学実習Ⅱ	老年看護学実習Ⅰの単位を修得していること
精神看護学実習	精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を修得していること
母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱの単位を修得していること
小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位を修得していること
地域・在宅看護学実習	地域・在宅看護学概論、地域生活支援論、在宅看護援助論の単位を修得していること
統合実習	成人看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅱ、母性看護学実習、小児看護学実習、地域・在宅看護学実習の単位を修得見込みであること

〈履修科目一覧 看護学科（2022年度以降カリキュラム）〉

科目 区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	導入	必修	スタートアップ講座[1]						1単位
	人間の理解	必修	生命科学[1] 心理学[1] 倫理学[1] 医療と論理学[1]						4単位
		選択		発達心理学[1] 生命倫理[1] 医療と哲学[1] 医療と宗教[1]					2単位以上
		選択	人間関係の科学[1] 北海道史[1]	法学[1] 教育学[1] ポランティア論[1]	音楽[1]				6単位以上
	必修		情報科学Ⅰ[1] 情報科学Ⅱ[1]	統計学[1]				3単位	
	選択		自然科学[1] 生活と運動[1]	生活科学[2] 環境科学[1] 健康とスポーツ[1]				5単位以上	
	必修		日本語表現[1] 英語Ⅰ[1]	英語Ⅱ[1]				3単位	
	選択			中国語[1] 韓国語[1]	英語Ⅲ[1] 英語Ⅳ[1]			2単位以上	
	健康と疾病	必修	総合医療論[1] 形態機能学Ⅰ(消化器・血液系)[1] 形態機能学Ⅱ(循環・代謝系)[1] 形態機能学Ⅲ(運動・神経系)[1] 臨床微生物学[1]	形態機能学Ⅳ(人体解剖実習)[1] 臨床栄養学[1] 感染症概論[1]	病態病理学[1] 治療法概論[1] 疾病論Ⅰ(循環器・呼吸器系)[1] 疾病論Ⅴ(高齢者と精神)[1]	臨床薬理学[1] 疾病論Ⅱ(消化器・血液系)[1] 疾病論Ⅲ(運動・神経系)[1] 疾病論Ⅳ(内分泌・泌尿器・感覚器系)[1]	疾病論Ⅵ(女性と小児)[1] リハビリテーション概論[1]		18単位
		必修		公衆衛生学[1] 保健医療福祉行政論[1]	保健医療統計[1] 関係法規[1]	チーム医療論[1]	健康教育論[1]		6単位
	選択		社会福祉学[1] コミュニケーション論[1]	家族論[1] 心の健康科学Ⅰ[1]	心の健康科学Ⅱ[1]			4単位以上	

看護学科

科目区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
看護の基本	必修 初期実習 [1] 看護学概論 [2] 看護の基本技術論 [2] 生活援助技術Ⅰ [1]	生活援助技術Ⅱ [1] 生活援助技術Ⅲ [1]	看護ヘルスケアシステム論 [1] 基礎看護学実習Ⅰ [1] 基礎看護学実習Ⅱ [2] 看護過程論 [1]	診療過程の援助技術 [1]	看護倫理 [1]				15単位
	必修 対象の特徴と看護実践		成人看護学概論 [2] 老年看護学概論 [2] 成人看護援助論Ⅰ [1] 成人看護学特論 [1] 老年看護援助論Ⅰ [1] 母性看護学概論 [2] 精神看護学概論 [2] 地域・在宅看護学概論 [2]	成人看護援助論Ⅰ [1] 成人看護援助論Ⅲ [1] 老年看護援助論Ⅰ [1] 小児看護援助論Ⅱ [1] 小児看護学概論 [2] 母性看護援助論Ⅰ [1] 精神看護援助論Ⅰ [1] 精神看護学実習 [2] 在宅看護援助論 [2] 地域生活支援論 [2]	成人看護学実習Ⅰ [4] 成人看護学実習Ⅱ [2] 老年看護学実習Ⅰ [1] 小児看護学実習 [2] 母性看護学実習 [2] 地域・在宅看護学実習 [2]				45単位
看護の総合学習	必修		医療安全 [1]		看護研究 [1] 看護管理 [1]		統合実習 [2]	臨床看護技術演習 [1]	9単位
	選択				看護研究ゼミナールⅠ [1] 看護研究ゼミナールⅡ [1] 看護ゼミナール [1]			看護教育 [1] 災害看護 [1] エンドオブライフケア [1]	2単位以上

必修科目	29単位	31単位	29単位	15単位	104単位
選択科目	17単位	9単位	2単位	3単位	31単位
計	46単位	40単位	31単位	18単位	135単位
CAP制(履修上限)	45単位	40単位	31単位	18単位	134単位

○卒業要件 125単位以上 必修104単位 選択21単位以上

○[] 内は、単位数

○太字は臨地実習科目 (1単位45時間)

〈看護学科カリキュラムマップ〉

DP	DPL 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質										DP5. 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力	
	基礎教育科目					専門基礎教育科目					DP4. 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力	
	導入	人間の理解	人間と社会	生活と情報	語学	社会と健康支援	健康と疾病	看護の基本	対象の特徴と看護実践	看護の統合学習	対象の特徴と看護実践	初期実習 (必1)
1 年 次	スタートアップ講座(必1)	生命科学 (必1)	人間関係の科学(選1)	情報科学Ⅰ (必1)	日本語表現 (必1)	公衆衛生学 (必1)	総合医療論 (必1)	看護学概論 (必2)	看護学概論 (必2) 看護の基本技術論 (必2) 生活援助技術Ⅰ (必1) 生活援助技術Ⅱ (必1) 生活援助技術Ⅲ (必1)	看護の統合学習	対象の特徴と看護実践	初期実習 (必1)
		心理学 (必1)	北海道史 (選1)	情報科学Ⅱ (必1)	英語Ⅰ (必1)	保健医療福祉行政論 (必1)	形態論Ⅰ(循環・血液系) (必1)	看護の基本技術論 (必2)				
		倫理学 (必1)	文化人類学 (選1)	統計学 (選1)	英語Ⅱ (必1)	社会福祉学 (選1)	形態論Ⅱ(循環・消化器系) (必1)	生活援助技術Ⅰ (必1)				
		医療と論理学 (必1)	医療と社会 (選1)	自然科学 (選1)	中国語 (選1)	コミュニケーション論(選1)	形態論Ⅲ(運動・神経系) (必1)	生活援助技術Ⅱ (必1)				
2 年 次		発達心理学 (選1)		生活と運動 (選1)	英語Ⅲ (選1) 韓国語 (選1)	保健医療統計 (必1)	形態論Ⅳ(内分泌・代謝系) (必1)	臨床看護学概論 (必2)	成人看護学概論 (必2) 成人看護援助Ⅰ (必1) 成人看護学特論 (必2) 老年看護学概論 (必2) 老年看護援助Ⅰ (必1) 母性看護学概論 (必2) 精神看護学概論 (必2) 地域・在宅看護学概論 (必2)	医療安全 (必1)	基礎看護学実習Ⅰ (必1) 基礎看護学実習Ⅱ (必2)	
		生命倫理 (選1)		生活科学 (選2)		関係法規 (必1)	形態論Ⅴ(臓器・呼吸器系) (必1)	看護過程論 (必1)				
		医療と哲学 (選1)		環境科学 (選1)		チーム医療論 (必1)	疾病論Ⅰ(循環器・呼吸器系) (必1)	診療過程の援助技術 (必1)				
		医療と宗教 (選1)		健康とスポーツ(選1)		家族論 (選1)	疾病論Ⅱ(消化器・血液系) (必1)	老年看護学特論 (必2)				
3 年 次					英語Ⅳ (選1)	心の健康科学Ⅰ (選1)	疾病論Ⅲ(運動・神経系) (必1)	老年看護学概論 (必2)	成人看護援助Ⅱ (必1) 成人看護援助Ⅲ (必1) 老年看護援助Ⅱ (必1) 精神看護学実習 (必2) 小児看護学概論 (必2) 小児看護援助Ⅰ (必1) 小児看護援助Ⅱ (必1) 母性看護援助Ⅰ (必1) 母性看護援助Ⅱ (必1) 精神看護援助Ⅰ (必1) 精神看護援助Ⅱ (必1) 地域生活支援論 (必2) 在宅看護援助論 (必2)	看護研究 (必1) 看護ゼミナールⅠ (必1) 看護管理 (必1) 感染管理 (選1)	成人看護学実習Ⅰ (必4) 老年看護学実習Ⅰ (必1) 精神看護学実習 (必2)	
						心の健康科学Ⅱ (選1)	疾病論Ⅳ(認知・神経・感覚系) (必1)	精神看護学概論 (必2)				
							疾病論Ⅴ(高齢者と精神) (必1)	地域・在宅看護学概論 (必2)				
4 年 次					英語Ⅳ (選1)	健康教育論 (必1)	疾病論Ⅵ(女性と小児) (必1)	看護倫理 (必1)	成人看護援助Ⅳ (必1) 成人看護援助Ⅴ (必1) 老年看護援助Ⅲ (必1) 精神看護学実習 (必2) 小児看護学実習 (必2) 小児看護援助Ⅲ (必1) 母性看護援助Ⅲ (必1) 精神看護援助Ⅲ (必1) 精神看護援助Ⅳ (必1) 地域生活支援論 (必2) 在宅看護援助論 (必2)	看護研究 (必1) 看護ゼミナールⅡ (必1) 看護管理 (必1) 感染管理 (選1)	成人看護学実習Ⅱ (必2) 老年看護学実習Ⅱ (必2) 小児看護学実習 (必2) 母性看護学実習 (必2) 災害看護 (選1) 地域・在宅看護学実習 (必2) エンドオブライフケア(選1) 統合実習 (必2)	
							リハビリテーション概論 (必1)					

※ DP: ディプロマポリシー

II-2 リハビリテーション学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1. 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1. 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

1. 理学療法士・作業療法士を志している人
2. 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 基礎的コミュニケーション能力を有している人
4. 他者を思いやる心がある人
5. 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
6. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1. 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
- 7-2. 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた理学療法士・作業療法士を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。
5. 問題解決に向けた科学的思考能力と主体的学修能力で自己成長できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

リハビリテーションとは、単に手足の機能回復などの部分的な意味にとどまるものではなく、人間全体として「人間らしく生きる権利の回復（全人間的復権）」を意味するものです。これを遂行するために理学療法士・作業療法士は、科学的思考に基づいた専門的知識・技術を用いて、保健医療福祉チームと協働してリハビリテーションサービスを提供します。

リハビリテーション学科では、様々な状況や環境にある国民のリハビリテーションに対する期待に応えられるリハビリテーション専門職としての理学療法士・作業療法士の育成を目指しています。本学のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献することができるように構成されています。

(2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、理学療法士・作業療法士の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、選択科目を多く開講し、リハビリテーション学科で掲げた人材育成に必要な科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

リハビリテーション医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、理学療法士・作業療法士として必要な専門的知識・技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から専門基礎教育科目、専門教育科目を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習でリハビリテーション領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨床実習

リハビリテーション学は実践の科学であり、そのために必要な臨床実習には多くの時間を割いています。臨床実習は、既修の理論と知識、技術を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、リハビリテーションの現象を意味付け、リハビリテーションを知として学ぶ学修でもあります。特に「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」は、当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

学 年	1年間の上限（2022年度以降カリキュラム）
1 年	47 単位
2 年	41 単位
3 年	37 単位
4 年	21 単位

履修登録のスケジュールは該当年度の「履修の手引き」および掲示などで確認してください。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の「履修の手引き」及び学生ポータルサイトで通知されます。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

-

— 26 —

臨床実習科目	先 修 要 件
臨床実習Ⅰ	2年次前期までの必修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	3年次前期までの必修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅲ	3年次後期までの履修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅳ	

3. 単位修得について

1) 卒業要件総単位数（2022年度以降入学生）

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

《リハビリテーション学科》

理学療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小 計
必修単位	12 単位	37 単位	60 単位	109 単位
選択単位	12 単位以上	2 単位以上	3 単位以上	17 単位以上
小 計	24 単位以上	39 単位以上	63 単位以上	126 単位以上

作業療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小 計
必修単位	12 単位	37 単位	63 単位	112 単位
選択単位	12 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	16 単位以上
小 計	24 単位以上	39 単位以上	65 単位以上	128 単位以上

2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1) 基礎教育科目

必修科目 12 単位、選択科目から 12 単位以上選択

「科学的思考の基礎」

必修科目 5 単位、選択科目から 7 単位以上選択

リハビリテーション学の基礎となる学問的探究心と科学的思考力を養います。

「人間と生活及び社会の理解」

必修科目 4 単位、選択科目から 3 単位以上選択

人間に関する学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けます。

「語学」

必修科目 3 単位、選択科目から 2 単位以上選択

語学学修をととして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目

必修科目 37 単位、選択科目から 2 単位以上選択

「人体の構造と機能及び心身の発達」

必修科目 17 単位

リハビリテーション学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び心身の発達について、解剖学、生理学、運動学を中心に学びます。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」

必修科目 16 単位、選択科目から 1 単位以上選択

リハビリテーションの対象となる疾病や障害の成り立ち及び回復過程の促進について、基礎医学を学修するとともに、理学療法士・作業療法士の臨床場面において、障害を把握できる能力を養い、問題解決能力の基礎となる知識を修得します。

「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」

必修科目 4 単位、選択科目から 1 単位以上選択

保健医療福祉チームの一員として、かつリハビリテーションを共通言語とした他職種との連携・協働力の育成に必要なコミュニケーションのあり方やチーム医療を総合的に学修します。

3) 専門教育科目

卒業要件：「理学療法学専攻」必修科目を含む63単位以上

「作業療法学専攻」必修科目を含む65単位以上

専門教育科目は、専攻別に以下の区分で設定されています。ただし両専攻において「共通・連携科目」（必修9単位、選択3単位）を設定し、理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応する広い視野を持つ専門職を目指します。これにより、リハビリテーション学科として、両専攻の学生が互いに将来の様々な領域での協業をイメージすることができます。

「理学療法学専攻」

「基礎理学療法学」

必修科目 6 単位

理学療法の概要を知るとともに、「理学療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模擬的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

「理学療法評価学」

必修科目 7 単位、選択科目 1 単位

疾病や障害に応じた理学療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

「理学療法治療学」

必修科目 16 単位、選択科目および共通・連携科目の選択科目から 3 単位以上選択

疾病や障害に応じた理学療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害理学療法学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

「地域理学療法学」

必修科目 2 単位

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく、理学療法士の役割や他職種との連携のあり方を住環境整備もふくめて学びます。

「理学療法臨床実習」

必修科目 20 単位

臨床実習は、既修の理論と知識、技術を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では、理学療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで理学療法に関連する見学をします。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで、対象者を理解するための理学療法評価を実施し、理学療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、理学療法評価、計画立案から実施までの一連の過程を実施・体験するとともに、他職種との連携・協働など専門職としてのあるべき行動を実習します。

「共通・連携科目」

必修科目 9 単位

これからのリハビリテーションとして理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応するために必要な知識と探求する力を養います。「研究法」や「卒業研究」は、卒業後に求められるリハビリテーションの今後を担う人材に必要な知識であり力となります。また、現代社会の背景となっている高齢化社会やジェンダー、職場環境など、幅広い知識を「地域リハビリテーション学・演習」、「ウィメンズヘルスケア」、「リハビリテーション

管理学」、「呼吸リハビリテーション特論」、「災害リハビリテーション」、「軟部組織治療学」をとおして学びます。

【作業療法学専攻】

「基礎作業療法学」

必修科目 6 単位

作業療法の概要を知るとともに、「作業療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模範的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

「作業療法評価学」

必修科目 5 単位

疾病や障害に応じた作業療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

「作業療法治療学」

必修科目 17 単位、選択科目および共通・連携科目の選択科目から 2 単位以上選択

疾病や障害に応じた作業療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害作業療法学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

「地域作業療法学」

必修科目 2 単位

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく、作業療法士の役割や他職種との連携のあり方を住環境整備もふくめて学びます。

「作業療法臨床実習」

必修科目 24 単位

臨床実習は、既修の理論と知識、技術を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では、作業療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで作業療法に関連する見学をします。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで、対象者を理解するための作業療法評価を実施し、作業療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、作業療法評価、計画立案から実施までの一連の過程を実施・体験するとともに、他職種との連携・協働など専門職としてのあるべき行動を実習します。

「共通・連携科目」

必修科目 9 単位

これからのリハビリテーションとして理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応するために必要な知識と探求する力を養います。「研究法」や「卒業研究」は、卒業後に求められるリハビリテーションの今後を担う人材に必要な知識であり力となります。また、現代社会の背景となっている高齢化社会やジェンダー、職場環境など、幅広い知識を「地域リハビリテーション学・演習」、「ウィメンズヘルスケア」、「リハビリテーション管理学」、「呼吸リハビリテーション特論」、「災害リハビリテーション」、「軟部組織治療学」をとおして学びます。

〈履修科目一覧 理学療法専攻（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	必修	心理学ⅠⅠ 情報科学Ⅰ	生活と運動ⅠⅠ		人間発達学ⅡⅡ				12単位以上 (必修科目5単 位を含む)
	選択	生物学ⅡⅡ 環境科学ⅠⅠ 情報科学演習ⅠⅠ 物理学ⅡⅡ	発達心理学ⅠⅠ 生活科学ⅠⅠ 健康とスポーツⅠⅠ 統計学ⅠⅠ						
	必修	倫理学ⅠⅠ 人間関係の科学ⅠⅠ	生命倫理ⅠⅠ 医療と社会ⅠⅠ						7単位以上 (必修科目4単 位を含む)
	選択	医療と論理学ⅠⅠ 法学ⅠⅠ 教育学ⅠⅠ 北海道史ⅠⅠ	医療と哲学ⅠⅠ 文化人類学ⅠⅠ 医療と宗教ⅠⅠ	ポランティア論ⅠⅠ 音楽ⅠⅠ					
語学	必修	日本語表現ⅠⅠ 英語ⅠⅠ	英語ⅡⅠⅠ						5単位以上 (必修科目3単 位を含む)
	選択		中国語ⅠⅠ	英語ⅢⅠⅠ 韓国語ⅠⅠ	英語ⅣⅠⅠ				
専門基礎教育科目	必修	解剖学ⅠⅡⅡ 解剖学演習ⅡⅡ 体表解剖学ⅠⅠ 生理学ⅠⅡⅡ	解剖学ⅡⅡⅡ 生理学ⅡⅡⅡ 運動学ⅠⅡⅡ	生理学演習ⅠⅠ 運動学ⅡⅡⅡ	運動学演習ⅠⅠ				17単位
	必修	栄養学ⅠⅠ	病理学ⅡⅡ 薬理学ⅠⅠ 予防医学ⅠⅠ	整形外科科学ⅡⅡ 神経内科学ⅡⅡ 小児科学ⅠⅠ 障害学特論ⅠⅠ	内科学ⅡⅡ 精神医学ⅡⅡ 小児科学ⅠⅠ 障害学特論ⅠⅠ	応急処置法ⅠⅠ			
	選択			心の健康科学ⅠⅠⅠ 教育心理学ⅠⅠ	心の健康科学ⅡⅡⅠ				必修を含む 17単位以上
	必修	リハビリテーション論ⅡⅡ				チーム医療論ⅠⅠ		健康政策論ⅠⅠ	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	必修								必修を含む 5単位以上
	選択		社会福祉学ⅠⅠ		保健医療論ⅠⅠ				

理学療法専攻

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 療法 理学 学	必修	理学療法概論演習ⅠⅠ 理学療法セミナーⅠⅠ		理学療法セミナーⅡⅠⅠ	理学療法セミナーⅢⅠⅠ			理学療法総合演習ⅠⅠ	6単位
	必修		理学療法評価学(運動系)ⅠⅠ 理学療法評価学演習(運動系)ⅡⅡ	理学療法評価学(神経系)ⅠⅠ 理学療法評価学演習(神経系)ⅡⅡ 臨床判断学(基礎編)ⅠⅠ					
	選択					臨床判断学(応用編)ⅠⅠ			7単位以上
理学療法治療学	必修		運動療法学ⅠⅠ	運動療法学演習ⅠⅠ	運動器障害理学療法学ⅠⅠ 運動器障害理学療法演習ⅠⅠ 神経障害理学療法学ⅠⅠ 神経障害理学療法演習ⅠⅠ 代償・免致・適応理学療法学ⅠⅠ 物理療法学ⅠⅠ 物理療法演習ⅠⅠ 義肢装具学ⅠⅠ 日常生活活動基礎学ⅠⅠ	呼吸・循環器障害理学療法学ⅠⅠ 発達障害理学療法学ⅠⅠ 高齢期障害理学療法学ⅠⅠ 義肢装具学演習ⅠⅠ 神経筋促進治療学ⅠⅠ			必修16単位 と、○を含む 共通・連携科 目の選択科目 の中から3 単位以上
	選択					○高次脳機能障害学ⅠⅠ ○徒手関節治療学ⅠⅠ ○スポーツ理学療法学ⅠⅠ 生活環境学ⅠⅠ			
	必修			臨床実習Ⅰ(理学療法)ⅡⅡ	地域理学療法学ⅠⅠ				2単位
地域 療法 学	必修			臨床実習Ⅰ(理学療法)ⅡⅡ		臨床実習Ⅱ(理学療法)ⅣⅣ	臨床実習Ⅲ(理学療法)ⅦⅦ 臨床実習Ⅳ(理学療法)ⅦⅦ		20単位
	必修		地域リハビリテーション学ⅠⅠ	地域リハビリテーション学演習ⅠⅠ	研究法ⅠⅠ 卒業研究ⅠⅡⅡ	呼吸リハビリテーション特論ⅠⅠ	卒業研究ⅡⅠⅠ	リハビリテーション管理理学ⅡⅡ	9単位以上
	選択				ウイメンズヘルスケア論ⅠⅠ 災害リハビリテーションⅠⅠ	軟部組織治療学ⅠⅠ			

必修科目	33単位	30単位	27単位	19単位	109単位
選択科目	19単位	8単位	8単位	0単位	35単位
計	52単位	38単位	35単位	19単位	144単位
CAP制(履修上限)	47単位	41単位	37単位	21単位	146単位

○卒業要件 126単位以上 必修109単位 選択17単位以上

○「」内は、単位数

〈履修科目一覧 作業療法専攻（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	科学的思考の基礎	必修 心理学ⅠⅡ 情報科学Ⅰ	生活と運動Ⅰ		人間発達学Ⅱ					12単位以上 (必修科目5単 位を含む)
	選択	生物学Ⅱ 環境科学Ⅰ 情報科学演習Ⅰ 物理学Ⅱ	発達心理学Ⅰ 生活科学Ⅰ 健康とスポーツⅠ 統計学Ⅰ							
	必修	倫理学Ⅰ 人間関係の科学Ⅰ	生命倫理Ⅰ 医療と社会Ⅰ							7単位以上 (必修科目4単 位を含む)
	選択	医療と論理学Ⅰ 法学Ⅰ 教育学Ⅰ 北海道史Ⅰ	医療と哲学Ⅰ 文化人類学Ⅰ 医療と宗教Ⅰ	ポランティア論Ⅰ	音楽Ⅰ					
語学	必修	日本語表現Ⅰ 英語ⅠⅡ	英語ⅡⅠ							5単位以上 (必修科目3単 位を含む)
	選択		中国語Ⅰ	英語ⅢⅠ 韓国語Ⅰ		英語ⅣⅠ				
専門基礎教育科目	心身の機能の発達	必修 解剖学ⅠⅡ 解剖学演習Ⅱ 体表解剖学Ⅰ 生理学ⅠⅡ	解剖学ⅡⅡ 生理学ⅡⅡ 運動学ⅠⅡ	生理学演習Ⅰ 運動学ⅡⅡ	運動学演習Ⅰ					17単位
	必修	栄養学Ⅰ	病理学Ⅱ 薬理学Ⅰ 予防医学Ⅰ	整形外科科学Ⅱ 神経内科学Ⅱ 小児科学Ⅰ 障害学特論Ⅰ	内科学Ⅱ 精神医学Ⅱ 小児科学Ⅰ 障害学特論Ⅰ	応急処置法Ⅰ				必修を含む 17単位以上
	選択			心の健康科学ⅠⅠ 教育心理学Ⅰ	心の健康科学ⅡⅠ					
	必修	リハビリテーション論Ⅱ				チーム医療論Ⅰ		健康政策論Ⅰ		必修を含む 5単位以上
	必修									
	選択		社会福祉学Ⅰ		保健医療論Ⅰ					

作業療法学専攻

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 療法学	作業療法概論 [1]	基礎作業学演習 [1] 作業療法セミナーⅠ [1]		作業療法セミナーⅡ [1]		作業療法セミナーⅢ [1]		作業療法総合演習 [1]	6 単位
作業 療法学		作業療法評価学 [1] 作業療法評価学演習 (基礎) [1] 作業療法評価学演習 (応用) [1]		作業療法評価学演習 (応用) [1] 作業療法評価学演習 (応用) [1]					5 単位
作業療法治療学	必修			日常生活応用学 (ADL) [2]	身体障害作業治療学 (中枢神経障害系) [2] 身体障害作業治療学 (運動器・内部障害系) [2] 精神障害作業治療学 [2] 発達障害作業治療学 [2] 高齢期障害作業治療学 [2]				必修17単位 と、○を含む 共通・連携科 目の選択科 目の中から2 単位以上
	選択				高次脳機能障害作業治療学 [1] 就労支援作業療法学 [1] 義肢装具作業療法学 [1] 義肢装具作業療法学演習 [1] 日常生活応用学 (創作分析) [1]				
地域 療法学	必修			福祉住環境論 [1]	地域作業療法学 [1]				2 単位
	必修			臨床実習Ⅰ (作業療法) [2]		臨床実習Ⅱ (作業療法) [6]	臨床実習Ⅲ (作業療法) [8] 臨床実習Ⅳ (作業療法) [8]		24 単位
共通・ 連携科目	必修		地域リハビリテーション学 [1]	地域リハビリテーション学演習 [1]	研究法 [1] 卒業研究Ⅰ [2]	呼吸リハビリテーション特論 [1]	卒業研究Ⅱ [1]	リハビリテーション管理 理学 [2]	9 単位以上
	選択				ウイメンズヘルスケア論 [1] 災害リハビリテーション [1]	軟部組織治療学 [1]			

必修科目	33 単位	29 単位	29 単位	21 単位	112 単位
選択科目	19 単位	8 単位	8 単位	0 単位	35 単位
計	52 単位	37 単位	37 単位	21 単位	147 単位
CAP制 (履修上限)	47 単位	41 単位	37 単位	21 単位	146 単位

○卒業要件 128 単位以上 必修112 単位 選択16 単位以上
○ [] 内は、単位数

〈カリキュラム・マップ 理学療法学専攻〉

※DP：ディプロマポリシー

DP	DP1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質	DP2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力	DP3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力	DP4.1. 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的に安全な理学療法を提供できる能力	DP5. 科学的思考をもって主体的に学び、理学療法・作業療法学を発展させる能力
科目区分	基礎教育科目			専門基礎教育科目	
	科学的思考の基礎	人間と生活及び社会の理解	語学	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
1 年 次	物理学 (選2) 生活科学 (選1) 健康とスポーツ (選1) 統計学 (選2) 生物学 (選2) 環境科学 (選1) 情報科学演習 (選1) 発達心理学 (選1) 生活と運動 (必1) 心理学 (必1) 情報科学 (必1)	人間関係の科学 (必1) 文化人類学 (選1) 医療と社会 (必1) 医療と哲学 (選1) 北海道史 (選1) 教育学 (選1) 法学 (選1) 医療と論理学 (選1) 生命倫理 (必1) 倫理学 (必1) 医療と宗教 (選1)	中国語 (選1) 英語Ⅱ (必1) 日本語表現 (必1) 英語Ⅰ (必1)	解剖学Ⅰ (必2) 解剖学Ⅱ (必2) 運動学Ⅰ (必2) 生理学Ⅰ (必2) 生理学Ⅱ (必2) 解剖学演習 (必2) 体表解剖学 (必1)	薬理学 (必1) 予防医学 (必1) 栄養学 (必1) 病理学 (必2)
2 年 次	人間発達学 (必2)	音楽 (選1) ポランティア論 (選1)	英語Ⅲ (選1) 韓国語 (選1)	運動学演習 (必1) 生理学演習 (必1) 運動学Ⅱ (必2)	心の健康科学Ⅰ (選1) 心の健康科学Ⅱ (選1) 教育心理学 (選1) 障害者特論 (必1) 精神医学 (必2) 内科学 (必2) 整形外科 (必2) 神経内科学 (必2) 小児科学 (必1)
3 年 次			英語Ⅳ (選1)		臨床判断学 (選1) チーム医療論 (必1)
4 年 次					健康政策論 (必1)
専門教育科目	専門教育科目				
	理学療法学	理学療法評価学	地域理学療法学	共通連携科目	理学療法臨床実習
1 年 次	基礎理学療法学	臨床判断学 (基礎編) (必1) 理学療法評価学 (基礎系) (必1) 理学療法評価学 (運動系) (必1) 理学療法評価学 (運動系) (必1)	理学療法概論 (必1) 理学療法概論演習 (必1) 理学療法ミニナラーⅠ (必1)	保健医療福祉とリハビリテーションの理念 社会福祉学 (選1) リハビリテーション論 (必2)	
2 年 次	運動療法学演習 (必1) 運動療法学 (必1)	臨床判断学 (基礎編) (必1) 理学療法評価学 (基礎系) (必1) 理学療法評価学 (運動系) (必1) 理学療法評価学 (運動系) (必1)	理学療法ミニナラーⅡ (必1)	保健医療論 (選1)	臨床実習Ⅰ (理学療法) (必2) 地域リハビリテーション演習 (必1)
3 年 次	高次脳機能障害学 (選1) 徒手関節治療学 (選1) スポーツ理学療法学 (選1) 発達障害理学療法学 (必1) 高齢期障害理学療法学 (必1) 神経筋伝導治療学 (必1) 運動器障害理学療法学 (必1) 運動器障害理学療法学演習 (必1) 神経障害理学療法学 (必1) 神経障害理学療法学演習 (必1) 呼吸・循環器障害理学療法学 (必1) 代謝・免疫系障害理学療法学 (必1) 物理療法学 (必1) 物理療法学演習 (必1) 義肢装具学 (必1) 義肢装具学演習 (必1) 日常生活活動基礎学 (必1)	臨床判断学 (応用編) (選1)	地域理学療法学 (必1) 生活環境学 (必1)	軟部組織治療学 (選1) ウィメンズヘルスケア学 (選1) 災害リハビリテーション (選1) 呼吸リハビリテーション特論 (必1) 研究法 (必1) 卒業研究Ⅰ (必2)	臨床実習Ⅱ (理学療法) (必4)
4 年 次		理学療法総合演習 (必1)			臨床実習Ⅲ (理学療法) (必7) 臨床実習Ⅳ (理学療法) (必7)

※DP:ディプロマポリシー

Ⅱ 2 リハビリテーション学科

Ⅱ-3 診療放射線学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4. 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
3. 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
4. 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する。
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 診療放射線技師を志している人
2. 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 基礎的コミュニケーション能力を有している人
4. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化し、以下に掲げる特性を備えた診療放射線技師を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療を実践できる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

診療放射線学科は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と人間関係形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する」ことを教育研究上の目的としています。

(2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、診療放射線技師の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、診療放射線学科で掲げた人材育成に必要な選択科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教育科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

放射線医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、診療放射線技師として必要な専門的知識はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門基礎教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1 年次では、基礎教育科目を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1 年次から「専門基礎教育科目」を配置しているのは、専門教育科目への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」との関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2 年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3 年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4 年次では、3 年次までの学修に加え、さらなる実習で診療放射線領域の広がり学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨床実習

臨床実習は、既修の理論と知識や技能を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、放射線医学の現象を意味付け、診療放射線を知として学ぶ学修でもあります。

「早期臨床実習」では、早期に臨床現場を実習することで、他職種との関係や連携を通してチーム医療を体験し、診療放射線技師という職業を理解する学修です。「臨床実習Ⅰ」では、X線を使用した一般撮影をはじめ、CT、MRI、造影検査を通じて臨床の基本的な知識と技能に関する実践能力を身に付け、また、医療現場で患者と接しながら対人的な能力を体験的に学ぶ学修です。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習Ⅰの領域に加えて核医学検査分野と放射線治療分野の専門的な知識と応用能力を身に付ける学修の実習を配置しています。

④ 主体的学修

学修の主体は学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

CAP制は、各学年において次のように定めています。

（2022年度以降入学生）

学年	1年間の上限
1年	47単位
2年	37単位
3年	36単位
4年	25単位

2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の履修の手引き及び掲示等で確認してください。

3) 履修登録変更期間について

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の履修の手引き及び学生ポータルサイトで周知されます。

4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。履修の手引きとシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ①すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ②教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤臨床実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。

臨床実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければなりません。

5) 先修要件

臨床実習科目	先修要件
早期臨床実習	履修条件は、1年次後期までの必修単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅰ	履修条件は、2年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	履修条件は、3年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること

3. 単位修得について

1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

診療放射線学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修科目	12 単位	31 単位	62 単位	105 単位
選択科目	8 単位	8 単位	7 単位	23 単位
小 計	20 単位	39 単位	69 単位	128 単位

2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1 単位とは、学生が1 科目について行う45時間（2 単位の場合は90時間）の学修活動を意味し、その学修活動とは授業と自習からなります。授業科目の1 単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1 単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの講義課目の中に講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1) 基礎教育科目（必修科目12単位、選択科目18単位から8単位以上選択）

「人間と生活」必修科目3単位、選択科目10単位から4単位以上選択

生命・人間・社会等に関する幅広い学問領域について学び、自主的・自律的に学ぶ姿勢を身につけます。

「科学的思考の基礎」必修科目8単位、選択科目4単位から2単位以上選択

診療放射線学科の専門課程を学んでいく基礎となる探究心と科学的思考力を養います。

「語学」必修科目1単位、選択科目4単位から2単位以上選択

語学学習を通して他者とのコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目（必修科目31単位、選択科目12単位から8単位以上選択）

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」必修科目12単位、選択科目5単位から3単位以上選択

診療放射線学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを履修します。具体的には、解剖学、生理学、病理学、薬理学、衛生学などを学びます。

「保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術」必修科目16単位、選択科目4単位から3単位以上選択

放射線、放射線の物質との相互作用など放射線に関係する基礎的な教科を履修します。具体的には放射線物理学・放射化学・生物学、放射線計測学などを学びます。

「医療専門職の機能と役割」必修科目3単位、選択科目3単位から2単位以上選択

医療は多くの専門職種とのチーム医療として行われている事を学びます。

3) 専門教育科目（必修科目62単位、専門教育科目全体の選択科目10単位から7単位以上選択）

専門教育科目は、専門基礎分野等で修得した内容を踏まえ、医療専門職として必要な専門的知識と技術を修得します。

「診療画像技術学・画像診断学」

ここには診療画像技術学として合計11科目、画像診断学として合計6科目があり、診療画像検査に関する検査技術・検査機器・検査実験などと、画像解剖学・画像診断学の専門知識を学びます。診療画像技術学には必修科目14単位と選択科目2単位、画像診断学には必修科目8単位と選択科目2単位があります。

「核医学検査技術学」

ここには合計5科目があり、核医学検査に関する専門知識を学びます。必修科目6単位と選択科目1単位があります。

「放射線治療技術学」

ここには合計5科目があり、放射線治療に関する専門知識を学びます。必修科目7単位と選択科目1単位があります。

「医療画像情報学」

ここには合計5科目があり、医療画像に関する専門知識を学びます。必修科目6単位と選択科目1単位

があります。

「放射線安全管理学」

ここには必修の3科目があり、放射線管理に関する専門知識を学びます。必修科目4単位があります。

「医療安全管理学」

ここには必修の2科目があり、医療安全に関する専門知識を学びます。必修科目2単位があります。

「臨床実習」

臨床実習は必修の科目で、2学年の「早期臨床実習」1単位と3学年の「臨床実習Ⅰ」5単位と4学年の「臨床実習Ⅱ」6単位があり臨床実習病院での実習となります。臨床実習は、医療の現場で臨床実習指導者から検査・治療について学びます。学内の講義で学んだ事も含めて実際の医療現場でどの様に行われているかを体験し、患者接遇や他の医療職種のコミュニケーションについても学びます。

「総合科目」

総合科目は合計3科目があり、専門教育科目の復習の内容になっており、履修した専門教育科目のより深い理解やスキルを身につける内容を学びます。臨床実習や国家試験に向けて専門領域の学修をします。必修科目2単位と選択科目1単位があります。

「卒業研究」

卒業研究は合計2科目があり、3年次までに習得した知識を基礎として自主的な研究意欲と研究の基本的な考えを養うため、担当教員の指導の下で研究計画を立案します。4学年では立案された研究計画に従い研究を進め、最終的に卒業論文としてまとめます。また、卒業研究発表会においてプレゼンを行い、お互いに研究内容を報告します。必修科目1単位、選択科目2単位があります。

〈履修科目一覧 診療放射線学科（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分	必修/選択	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に必要な単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	必修	*生命科学 [1] *心理学 [1]	*医療コミュニケーション学 [1]							3 単位
		倫理学 [1] 人間関係の科学 [1] 北海道史 [1] 選択	教育学 [1] 生命倫理 [1] 医療と宗教 [1] 文化人類学 [1] 医療と社会 [1] 法学 [1]	ポランティア論 [1]						選択科目10単位 から4単位以上
	必修	*物理学 [2] *化学 [1] *生物学 [1] *数学I (指数・対数・三角関数) [2] *情報科学 [1]	*数学II (微分・積分・微分方程式) [1]							8 単位
		生活と運動 [1] 選択	数学III (統計学) [1] 情報科学演習 [1]	健康とスポーツ [1]						選択科目4単位 から2単位以上
専門基礎教育科目	必修	*英語I [1] 日本語表現 [1]	英語II [1] 中国語 [1]							1 単位 選択科目4単位 から2単位以上
	選択			韓国語 [1]						
	必修	*医学概論 [1] *系統解剖学 [2]	*臨床解剖学 [2] *衛生学 [1]	*病理学 [1] *生化学 [1]	*病態生理学 [1] *臨床医学概論 [1]	*臨床薬理学I [1]		*公衆衛生学 [1]		12 単位
	選択		系統解剖学演習 [1]	臨床解剖学演習 [1] 生理学 [1]		臨床薬理学II [1] 臨床医学演習 [1]				選択科目5単位 から3単位以上
専門基礎教育科目	必修	*放射線科学概論 [2]	*放射線生物学 [2] *放射線物理学 [2] *放射化学 [2] *放射線・物理学実験 [1] *医用工学 [2] *診療画像検査学概論 [2]	*放射線計測学 [2]				*放射線計測学演習 [1]		16 単位
	選択			放射線生物学演習 [1] 放射線物理学演習 [1] 放射化学演習 [1]				医用工学演習 [1]		選択科目4単位 から3単位以上

診療放射線学科

科目区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
医療専門機能と役割	必修			*基礎看護学[1]	*チーム医療論[1]		*医療職としての責任と役割[1]		3単位
選択				医療経済学[1] 心の健康科学Ⅰ[1]	放射線カウンセリング学[1]				選択科目3単位から2単位以上
必修				*診療画像技術学Ⅰ(一般撮影)[2] *X線CT検査学[1] *放射線技術学実習Ⅰ[1] *診療画像機器学[2]	*診療画像技術学Ⅱ(造影検査)[2] *MRI検査学[2] *放射線技術学実習Ⅱ[1]	*超音波検査学[2] *放射線技術学実習Ⅲ[1]			14単位
選択							診療画像技術学演習※[1] 診療画像機器学演習※[1]		※1
必修					*画像解剖学Ⅰ(X線画像)[2]	*画像診断学[2] *画像解剖学Ⅱ(MRI・超音波)[2] *実践臨床画像学[2]			8単位
選択						画像解剖学Ⅲ(演習)※[1]		画像診断学演習※[1]	※1
必修					*放射性医薬品学[1]	*核医学検査技術学概論[1] *核医学検査機器学[2]			6単位
選択								核医学検査技術学演習※[1]	※1
必修					*放射線治療技術学概論[2]	*放射線治療技術学[2]	*放射線治療計測学[1]		7単位
選択								放射線治療技術学演習※[1]	※1
必修					*医療画像処理学[1]	*医療画像情報学[2]	*医療情報管理学[1]		6単位
選択								医療画像情報学演習※[1]	※1

診療放射線学科

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
放射線安全管理学	必修				*医療機器安全管理学 [1]	*放射線安全管理学 [2]	*関係法規 [1]		4 単位
医療安全管理学	必修					*医療安全管理学 [1]	*応急処置法 (演習) [1]		2 単位
卒業研究	必修					*診療放射線学キウム [1]			1 単位
卒業研究	選択						卒業研究※ [2]		※1
総合科目	必修							*総合演習Ⅰ (専門基礎領域) [1] *総合演習Ⅱ (臨床領域) [1]	2 単位
選択							放射線技術学特別講義※ [1]		※1
臨床実習	必修					*臨床実習Ⅰ [5]	*臨床実習Ⅱ [6]		12 単位

必修科目	31 単位	26 単位	33 単位	15 単位	105 単位
選択科目	16 単位	11 単位	3 単位	10 単位	40 単位
計	47 単位	37 単位	36 単位	25 単位	145 単位
CAP制(履修上限)	47 単位	37 単位	36 単位	25 単位	145 単位

○ * は必修科目

○ 卒業要件 128 単位以上 必修 105 単位 選択 23 単位以上

○ [] 内は単位数

○ ※1 診療画像技術学、画像診断学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、総合科目、卒業研究の全ての選択科目の中から7単位以上を修得

〈カリキュラムマップ 診療放射線学科〉

DP				DP.5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力			
				DP.4 科学的根拠に基づき、			
				DP.3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力			
	DP.1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質			DP.2 高い専門			
科目区分	基礎教育科目			専門基礎教育科目			
	人間と生活	科学的思考の基礎	語学	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	医療専門職の機能と役割	診療画像技術学
1 年 次	生命科学（必1）	物理学（必2）	日本語表現（選1）	医学概論（必1）	放射線科学概論（必2）		
	心理学（必1）	化学（必1）	英語Ⅰ（必1）	系統解剖学（必2）	放射線生物学（必2）		
	倫理学（選1）	生物学（必1）	英語Ⅱ（選1）	系統解剖学演習（選1）	放射線物理学（必2）		
	生命倫理（選1）	生活と運動（選1）	中国語（選1）	臨床解剖学（必2）	放射線・物理学実験（必1）		
	医療と宗教（選1）	数学Ⅰ（指数・対数・三角関数）（必2）		衛生学（必1）	放射化学（必2）		
	人間関係の科学（選1）	数学Ⅱ（微分・積分・微分方程式）（必1）			医用工学（必2）		
	文化人類学（選1）	数学Ⅲ（統計学）（選1）			診療画像検査学概論（必2）		
	医療と社会（選1）	情報科学（必1）					
	法学（選1）	情報科学演習（選1）					
	教育学（選1）						
	北海道史（選1）						
	医療コミュニケーション学（必1）						
2 年 次	ボランティア論（選1）	健康とスポーツ（選1）	韓国語（選1）	臨床解剖学演習（選1）	放射線生物学演習（選1）	基礎看護学（必1）	診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（必2）
				生理学（選1）	放射線物理学演習（選1）	チーム医療論（必1）	診療画像技術学Ⅱ（造影検査）（必2）
				病態生理学（必1）	放射化学演習（選1）	医療経済学（選1）	X線CT検査学（必1）
				病理学（必1）	放射線計測学（必2）	心の健康科学Ⅰ（選1）	MRI検査学（必2）
				生化学（必1）		放射線カウンセリング学（選1）	放射線技術学実習Ⅰ（必1）
				臨床医学概論（必1）			放射線技術学実習Ⅱ（必1）
							診療画像機器学（必2）
3 年 次				臨床薬理学Ⅰ（必1）			超音波検査学（必2）
				臨床薬理学Ⅱ（選1）			放射線技術学実習Ⅲ（必1）
				臨床医学演習（選1）			
4 年 次				公衆衛生学（必1）	医用工学演習（選1）	医療職としての責任と役割（必1）	診療画像技術学演習（選1）
					放射線計測学演習（必1）		診療画像機器学演習（選1）

※DP:ディプロマポリシー

放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力

性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し保健医療福祉の向上に寄与できる能力

専門教育科目

画像診断学	核医学検査技術学	放射線治療技術学	医療画像情報学	放射線安全管理学	医療安全管理学	総合科目	臨床実習	卒業研究

Ⅱ-4 臨床検査学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4. 科学的根拠に基づき、良質な臨床検査を提供できる能力
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、臨床検査学を発展させる能力
6. 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

臨床検査学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するため、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため、「保健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」について学ぶ専門基礎科目を配置する
4. 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する
5. 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するため「検査総管理学」、「医療安全管理学」を配置する

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

臨床検査学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 臨床検査技師を志し臨床検査学の学修に意欲的に取り組むことができる人
2. 臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 基礎的なコミュニケーション能力を有している人
4. 他者の意見や考え方に触れ、自らの意見を整理し表現するための思考力・判断力・表現力を有している人
5. 基本的な生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた臨床検査技師を育成します。

1. 患者中心の仕事ができる臨床検査技師
2. 科学的に臨床検査学を追究できる臨床検査技師
3. 検査室の基本的運営・管理ができる能力をもった臨床検査技師

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

本学の基本理念、臨床検査学科の養成する人材像及び教育目標を達成するために、教育課程を編成し、医療人として必要な一般教養とともに臨床検査技師として求められる知識と技術を確実に修得することを目指しています。

「患者中心の仕事ができる臨床検査技師」の育成には、通常の専門教育科目に加え、チーム医療におけるマネジメント能力修得のための「コミュニケーション学」や「臨床検査マネジメント論」、各種チーム医療と臨床検査技師の役割や病棟内での臨床検査を学ぶための「チーム医療と臨床検査」や「臨床病棟検査概論」、臨床検査データの解析による医師へのサポート能力を身に付けるための「症例臨床検査学（細胞診、血液・染色体、微生物・感染制御、臨床化学・免疫、輸血、超音波）」を配置しています。

「科学的に臨床検査学を追究できる臨床検査技師」の育成には、専門基礎科目及び専門教育科目の総合的な修得や「卒業研究」により、臨床検査結果がもたらす意味を考えるうえでの応用力、観察力、洞察力や分析力を身につけ、研究の基礎となる教育研究を行います。

「検査室の基本的運営・管理ができる能力をもった臨床検査技師」の育成には、検査機器の安全管理を学ぶための「検査機器総論演習」、各種認定資格と制度を学ぶ「専門検査技師総論」、ISO15189を含めた臨床検査室管理体制や内部・外部精度管理の手法を修得するための「臨床検査管理学Ⅰ・Ⅱ」、検査室管理者の役割を理解するための「臨床検査マネジメント論」、検体採取時や生理機能検査従事者の安全管理、病院全体での医療安全を学ぶための「関係法規」や「医療安全管理学」、院内感染対策を学ぶための「感染管理学」を配置し、臨床検査室の運営や管理能力を備えるための実践的な教育研究を行います。

(2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門科目」の三領域で編成しています。また、臨床検査技師の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、臨床検査学科で掲げた人材育成に必要な科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、「基礎教育科目」→「専門基礎教育科目」→「専門教育科目」において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

臨床検査学は、「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、臨床検査技師として必要な専門的知識・技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」とを関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「基礎教育科目」との関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高めることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で臨床検査領域の広がりや学びとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨地実習

臨地実習では、学内の講義や実習で得た臨床検査学の知識・技術がどのように臨床の現場で応用され、実践されているかを学ぶことを目的としています。具体的には、検査材料の正しい採取の仕方、様々な検体の質の評価と取り扱い、検査機器の取り扱い方、検査結果の解釈と報告の仕方、他職種間スタッフとの連携や信頼関係、検査部門の管理体制や運営業務の実践的な技術を修得することです。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

1) 履修の上限単位 (CAP制)

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように、履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

2) 履修登録スケジュール

3) 履修登録変更期間

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の履修の手引き及び学生ポータルサイトで周知されます。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ① すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ② 教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③ 授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④ 各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ 臨地実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。

— 53 —

臨地実習科目	先修要件
臨地実習	3年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得していること。

3. 単位修得について

1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

臨床検査学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	10単位	23単位	85単位	118単位
選択単位	10単位以上	—	—	10単位以上
小 計	20単位以上	23単位	85単位	128単位以上

2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1) 基礎教育科目（必修科目10単位、選択科目16単位から10単位以上選択）

「人間と生活」 必修科目3単位、選択科目10単位から6単位以上選択

人間に関する学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けます。

「科学的思考の基礎」 必修科目4単位、選択科目3単位から2単位以上選択

臨床検査学の基礎となる学問的探究心と科学的思考力を養います。

「語学」 必修科目3単位、選択科目3単位から2単位以上選択

語学学修をとおして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目（必修科目 23 単位）

「人体の構造と機能」 必修科目 8 単位

人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、関連科目を修得するための基礎能力を養います。

「医学検査の基礎とその疾病との関連」 必修科目 6 単位

医学・医療における検査の基礎を学修し、疾病の成因を系統的に把握、理解します。

「保健医療福祉と医学検査」 必修科目 5 単位

保健・医療・福祉の制度を理解し、予防医学と検査の関連並びに疫学的分析法の理論と技術を学び、医療チームの一員としての自覚を養います。

「医療工学及び情報科学」 必修科目 4 単位

医療分野における工学的手法の基礎と概要及び安全性対策を理解・実践できる能力を養うとともに、情報科学の理論を修得します。

3) 専門教育科目（必修科目 85 単位）

「臨床病態学」 必修科目 12 単位

各種疾患の病態を体系的に学び、疾患と臨床検査との関わりについて理解し、臨床に対して支援する能力を養います。

「形態検査学」 必修科目 10 単位

身体の構造、特に疾病時の臓器・組織・細胞等の形態学的検査についての知識と技術を修得します。具体的には、病理・細胞検査学、血液検査学の領域について学修します。

「生物化学分析検査学」 必修科目 12 単位

各種生体試料に含まれる成分について、遺伝子解析を含む生物化学的分析の理論と実際を修得します。具体的には、一般検査学、臨床化学、遺伝子・染色体検査学の領域について学修します。

「病因・生体防御検査学」 必修科目 15 単位

病因・生体防御の仕組みを理解し、感染・免疫・輸血・移植に関する検査の理論と実際を修得します。具体的には、臨床微生物学、臨床免疫学、輸血・移植検査学の領域について学修します。

「生理機能検査学」 必修科目 11 単位

生体からの生理機能情報を収集するための理論を修得します。具体的には、臨床生理学、認知症検査学の領域について学修します。

「検査総管理学」 必修科目 7 単位

医療機関等における臨床検査の意義を理解し、総合的な精度管理及び機器・情報・運営・安全に関する管理法を修得するとともに、職業倫理を高めます。

「医療安全管理学」 必修科目 3 単位

臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、医療機関における感染管理及び医療安全について学びます。また、適切な検体採取法やそれに伴う危険因子の認識と対処できる能力を身に付けます。

「臨地実習」 必修科目 11 単位

臨床検査技師としての基本的な実践技術及び施設における検査部門の運営に関する知識を修得します。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養います。

「卒業研究」 必修科目 4 単位

卒業研究は必修科目 4 単位の科目で、臨床検査学科で学んだ集大成として担当教員の指導の下に研究テーマを決め、研究計画書の作成、実験、結果の解釈や検証方法などについて学びます。研究成果は発表会で発表し、論文としてまとめます。

〈履修科目一覧 臨床検査学科（2022年度以降カリキュラム）〉

科目 区分		1年		2年		3年		4年		卒業認定に 必要な単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 教育科目	人間と生活	必修 心理学Ⅰ コミュニケーション学Ⅰ	生命科学Ⅰ							9単位以上 (必修科目3 単位を含む)
	選択	倫理学Ⅰ 人間関係の科学Ⅰ 法学Ⅰ 教育学Ⅰ 北海道史Ⅰ	生命倫理Ⅰ 医療と哲学Ⅰ 文化人類学Ⅰ 医療と社会Ⅰ	ポランティア論Ⅰ						
	科学的思考の基礎	必修 化学Ⅰ 数学Ⅰ	生物学Ⅰ 数学〔統計学〕Ⅰ							6単位以上 (必修科目4 単位を含む)
	選択	物理学Ⅰ 健康とスポーツⅠ	生活と運動Ⅰ							
専門基礎 教育科目	語学	必修 英語ⅠⅠ	英語ⅡⅠ		英語ⅢⅠ					5単位以上 (必修科目3 単位を含む)
	選択	日本語表現ⅠⅠ	中国語ⅠⅠ	韓国語ⅠⅠ						
	人体の構造と機能	必修 解剖学Ⅰ 解剖学演習Ⅰ 生理学ⅠⅠ 生理学ⅡⅠ 生化学ⅠⅠ	組織細胞学Ⅰ 組織細胞学実習Ⅰ 生化学ⅡⅠ							8単位
	臨床検査の基礎と臨床検査	必修 免疫学Ⅰ 臨床栄養概論Ⅰ 臨床検査入門Ⅰ	病理学Ⅰ		臨床薬理概論Ⅰ		臨床病棟検査概論Ⅰ			
専門基礎 教育科目	保健医療福祉概論	必修 保健医療福祉概論Ⅰ		公衆衛生学Ⅰ		地域医療連携学Ⅰ	救命救急検査概論Ⅰ チーム医療と臨床検査Ⅰ			5単位
	医療情報科学	必修 情報科学Ⅰ 情報科学演習Ⅰ 医用工学Ⅰ	医用工学実習Ⅰ							
	臨床病態学	必修	臨床検査医学総論ⅠⅠ	臨床検査医学総論ⅡⅠ			症例細胞診検査学Ⅰ 症例血液・染色体検査学Ⅰ 症例微生物・感染制御学Ⅰ 症例臨床化学・免疫検査学Ⅰ 症例輸血検査学Ⅰ 症例超音波検査学Ⅰ	臨床検査総論演習Ⅳ		12単位

臨床検査学科

科目 区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	必修		病理検査学ⅠⅡ 病理検査学実習ⅠⅡ 臨床血液学ⅠⅡ	臨床血液学ⅡⅢ 臨床血液学実習ⅠⅡ 臨床血液学実習ⅡⅢ	細胞検査学ⅠⅡ 細胞検査学実習ⅠⅡ 臨床血液学実習ⅡⅢ	病理検査学総合演習ⅠⅡ	血液検査学総合演習ⅠⅡ		10単位
	必修	一般検査学ⅠⅡ 臨床化学ⅠⅡ	一般検査学ⅡⅢ 一般検査学実習ⅠⅡ 臨床化学ⅡⅢ 臨床化学実習ⅠⅡ	臨床化学実習ⅡⅢ	遺伝子染色体検査学ⅠⅡ	遺伝子検査学実習ⅠⅡ 一般検査学総合演習ⅠⅡ 分析検査学総合演習ⅠⅡ			12単位
	必修		微生物学ⅠⅡ 臨床免疫学ⅠⅡ	医動物学ⅠⅡ 臨床微生物学ⅠⅡ 臨床微生物学実習ⅠⅡ 臨床免疫学実習ⅠⅡ 輸血・移植検査学ⅠⅡ	臨床微生物学ⅡⅢ 臨床微生物学実習ⅡⅢ 輸血・移植検査学ⅡⅢ 輸血検査学実習ⅠⅡ	輸血検査学実習ⅡⅢ	微生物検査学総合演習ⅠⅡ 免疫検査学総合演習ⅠⅡ		15単位
	必修		臨床生理学ⅠⅡ 臨床生理学ⅡⅢ	臨床生理学ⅢⅣ 臨床生理学実習ⅠⅡ 臨床生理学実習ⅡⅢ	臨床生理学ⅣⅤ 臨床生理学実習ⅡⅢ	認知症検査概論ⅠⅡ	生理機能検査学総合演習ⅠⅡ		11単位
	必修	検査機器総論演習ⅠⅡ			関係法規ⅠⅡ	専門検査技師総論ⅠⅡ 臨床検査管理学ⅠⅡ 臨床検査管理学ⅡⅢ 臨床検査マネジメント論ⅠⅡ	臨床実習前総合実習ⅠⅡ		7単位
	必修		感染管理学ⅠⅡ 医療安全管理学ⅠⅡ 医療安全管理学実習ⅠⅡ						3単位
							臨床実習ⅠⅡ		11単位
	必修					卒業研究ⅣⅤ			4単位

必修科目	30単位	31単位	33単位	24単位	118単位
選択科目	14単位	2単位	0単位	0単位	16単位
計	44単位	33単位	33単位	24単位	134単位
CAP制(履修上限)	45単位	36単位	37単位	28単位	146単位

○卒業要件 128単位以上 必修118単位 選択10単位以上

○〔 〕内は、単位数

※DP:ディプロマポリシー

卒業研究 (必4)

II - 5 臨床工学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

本学の基本理念、「臨床工学科の養成する人材像」及び教育目標に基づき、臨床工学科における卒業時の到達目標は、以下のとおりとします。在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士（臨床工学）の称号を与えます。

1. 相手を思いやる豊かな人間性を有し、科学的な思考力を基に共生社会の発展に貢献する資質
2. 適切なコミュニケーション能力、協調する力を身につけ、常に患者を意識し他職種の医療従事者と連携・協働ができる能力
3. 臨床工学の専門的な知識や技術を身に付け、多様化・高度化する医療機器の適切な操作や安全に管理できる能力
4. 工学的な研究の基礎を身に付けた能力
5. 生涯にわたり自己研鑽する意欲と自己学修力を身に付けている

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

本学科では、本学の基本理念に基づき、人間を尊重する態度とチーム医療の一員として必要な高い倫理観を持ち、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術を高めることで医療機器を適切に操作できる確かな実践力と態度を身に付け、医療安全の確保と医療機器を用いた質の高い診療支援ができる臨床工学技士の育成を教育研究上の目的とします。また、臨床工学分野に関する学術研究の発展に寄与できる人材を育成するために、工学的な研究の基礎を修得したうえで医療機器の操作や安全管理における現象の解明や真理を発見するための実践力を磨くことで、臨床工学を学問として追求できる科学的思考と問題解決能力を有した人材育成を目指します。

1. 豊かな人間性を持ち、科学的思考力を基に共生社会の発展に貢献できる医療人材の育成のため適切なコミュニケーション能力や協調性、科学的思考力の修得を目的として、基礎教育科目である「人間と生活及び社会の理解」、「科学的思考の基盤」の必修および選択科目を学修して、高い倫理観と人間力を醸成する科目を配置する。
2. チーム医療において、常に患者を意識して最善の医療を提供するためには、医学と工学を総合的に理解した医工学のスペシャリストとして他職種と連携・協働することが必要であり、その基盤を形成するために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」について学ぶ専門基礎教育科目の科目を配置する。
3. 医療機器の適切な使用のために専門的な知識と技術を修得し、幅広い領域において医学的、または科学的根拠に基づいた良質な診療支援技術を提供できる人材育成のために、「人体の構造と機能」および「関連臨床医学」、「医用機器学及び臨床支援技術」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する。
4. 多様化・高度化する医療機器の安全使用を確保することで、医療安全の推進に寄与できる知識と技術を持った人材育成のために「医用生体工学」、「医療安全管理学」、「医用機器学及び臨床支援技術」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門教育科目の科目を配置する。

5. 医療機器の効果的な活用や安全使用など臨床工学分野で直面する課題を発見し、科学的に解明するための能力を磨くため、工学的な研究の基礎を身に付けたうえで「卒業研究」を必修科目とすることで医療機器に関連した課題について新たな知見を発見するための研究を遂行する。
6. 常に発展し続ける医療機器を管理する臨床工学技士には、生涯にわたり学修を継続することが必要であり、自ら主体的な学びの意欲を引き出すためのアクティブラーニングを実践するため、「プロジェクトスキルⅠ」、「プロジェクトスキルⅡ」、「チーム医療」、「臨床実習」および「卒業研究」を配置して段階的に学びの価値を追求する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

臨床工学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求めます。

1. 他者を思いやる心、相手の立場に立って物事を考えられることができる人
2. 基本的なコミュニケーション能力を有している人
3. 学ぶ意欲や挑戦する意欲があり、主体的に学修する意思がある人
4. 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
5. 高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身に付けている人

2) 教育目標

【教育目標—育成する人材像】

本学の基本理念や本学部の教育研究上の目的に基づき、臨床工学科の養成する人材像は、以下の通りとします。

1. 豊かな人間性を備え、倫理観や責任感をもった人材
2. チーム医療の一員として、医療に貢献できる人材
3. 専門性の高い医療機器を適切に操作できる人材
4. 多様化、複雑化する医療機器を安全に管理できる人材
5. 科学的に臨床工学を追究できる人材

3) 教育課程

（1）カリキュラムの特色と構成概念

本学科では、本学の基本理念に基づき、人間を尊重する態度とチーム医療の一員として必要な高い倫理観の醸成を重視しております。また、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術を高めることで医療機器を適切に操作できる確かな実践力と態度を身に付け、医療安全の確保と医療機器を用いた質の高い診療支援ができる臨床工学技士の育成を教育研究上の目的とします。さらに、臨床工学分野に関する学術研究の発展に寄与できる人材を育成するために、工学的な研究の基礎を修得したうえで医療機器の操作や安全管理における現象の解明や真理を発見できる実践力を磨き、臨床工学を学問として追求できる科学的思考と問題解決能力を有した人材育成を目指します。これらの教育目的を4年間で達成するためのカリキュラムを構成しています。

（2）教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、臨床工学技士の養成施設としての指定規則要件を充足しつつ、臨床工学科で掲げた人材育成に必要な科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、「基礎教育科目」→「専門基礎教育科目」→「専門教育科目」において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

臨床工学技士は、医療機器を介して患者の治療に関わる職種であるため、患者対応に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための科目を「基礎教育科目」として低学年に配置し、医療人に必要な学際的学問領域の科目を設定しています。

臨床工学技士の専門性を醸成するための科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、専門的な知識および技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、医療人の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習を通して、専門的知識を深め、最終学年での統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で臨床工学領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨床実習

臨床実習では、学内の講義や実習で得た臨床工学の知識・技術がどのように臨床の現場で応用され、実践されているかを学ぶことを目的としています。具体的には、医用室ごとに使用されている医療機器の操作および管理方法、医療施設の設備および管理方法、また医用機器を用いた治療における患者対応、他職種間の連携、医療安全管理体制などの実践的な技術を修得することです。当該領域の講義・演習を学修したのちに臨床実習を配置しています。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をととして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように、履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

学年	1年間の上限（2023年度カリキュラム）
1年	48単位
2年	45単位
3年	38単位
4年	29単位

2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の『履修の手引き』及び掲示などで確認してください。

3) 履修登録変更期間

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の『履修の手引き』及び学生ポータルサイトなどで通知します。

4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。『履修の手引き』とシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ① すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ② 教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③ 授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④ 各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ 臨床実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。
- ⑥ 国家試験の受験には卒業に必要なすべての単位を取得し、卒業見込みであることが要件となります。

5) 先修要件

臨床実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければならない。

臨床実習科目	先修要件
臨床実習	3年次後期までの専門基礎教育科目及び専門教育科目の必修単位をすべて修得し、3年次に実施するOSCE（客観的臨床能力試験）に合格していること。

3. 単位修得について

1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

臨床工学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	10単位	46単位	68単位	124単位
選択単位	8単位以上	4単位以上	2単位以上	14単位以上
小計	18単位以上	50単位以上	70単位以上	138単位以上

2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1) 基礎教育科目（必修科目10単位、選択科目18単位から8単位以上選択）

「人間と生活及び社会の理解」 必修科目3単位、選択科目10単位から4単位以上選択

人間に関する学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けます。

「科学的思考の基盤」 必修科目4単位、選択科目4単位から2単位以上選択

臨床工学の基礎となる学問的探究心と科学的思考力を養います。

「語学」 必修科目3単位、選択科目4単位から2単位以上選択

語学学修をととして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目（必修科目46単位、選択科目10単位から4単位以上選択）

「人体の構造と機能」 必修科目7単位

人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、関連科目を修得するための基礎能力を養います。

「臨床工学に必要な医学的基礎」 必修科目13単位

幅広い病態と治療の理解に必要な基礎を学修するほか、医療における臨床工学分野の役割を概論的に学ぶことで、チーム医療の中で他職種と連携・協働するために必要な基礎能力を養います。

「臨床工学に必要な理工学的基礎」 必修科目20単位、選択科目6単位から2単位以上選択

医用機器の原理・構造の理解に必要な工学の基礎を学修し、医用機器の安全管理を実践できる能力を養います。

「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」 必修科目6単位、選択科目4単位から2単位以上選択

分析力および応用力の修得に必要なデータ処理などを学修するほか、社会生活の中で他者との連携を図り、チーム医療を担う医療従事者の基盤をつくる実践的能力を養います。

3) 専門教育科目（必修科目68単位、選択科目7単位から2単位以上選択）

「医用生体工学」 必修科目8単位

基礎医学分野と基礎工学分野で学修した知識を総合的に理解し、医学と工学の知識を融合した医工学分野への応用力を修得します。

「医用機器学及び臨床支援技術」 必修科目18単位、選択科目4単位から1単位以上選択

検査・治療に関わる様々な医用機器の原理構造を理解し、医用機器の適正な管理方法を修得するほか、それぞれの分野ごとに医用機器に関連した臨床支援技術を修得します。

「生体機能代行技術学」 必修科目17単位、選択科目3単位から1単位以上選択

生命維持管理装置の操作管理に必要な基礎を修得し、さらに実践的な実技実習と組み合わせて臨床現場で必要不可欠な知識・技術を修得します。

「医療安全管理学」 必修科目 7 単位

医用機器の安全使用を確保するために必要な知識を幅広く理解し、医療安全の推進に寄与できる専門知識と技術を習得します。

「関連臨床医学」 必修科目 7 単位

臨床工学の業務である生命維持管理装置の操作・管理を行う上で必要な関連疾患の病態や診断方法、治療法について理解するための知識を修得します。

「臨床実習」 必修科目 7 単位

臨床工学技士としての臨床的な知識と実践技術を学ぶほか、医療チームの一員としての責任と自覚を養います。

「卒業研究」 必修科目 4 単位

臨床工学の発展に関わる基礎的研究を中心に担当教員の指導の下で、研究計画書の作成、実験、結果の評価方法や考察の考え方などについて学びます。研究成果は発表会で発表します。

〈履修科目一覧 臨床工学科 (2023年度カリキュラム)〉

科目 区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	必修	心理学Ⅰ	生命科学Ⅰ コミュニケーション学Ⅰ						7単位以上 (必修科目3 単位を含む)
	選択	倫理学Ⅰ 人間関係の科学Ⅰ 法学Ⅰ 教育学Ⅰ 北海道史Ⅰ	生命倫理Ⅰ 医療と哲学Ⅰ 文化人類学Ⅰ 医療と社会Ⅰ	ポランティア論Ⅰ					
	必修	物理学(基礎)Ⅰ 生活と運動Ⅰ 数学Ⅰ	数学(統計学)Ⅰ						
	選択	化学Ⅰ 健康とスポーツⅠ	物理学(応用)Ⅰ 生物学Ⅰ						
語学	必修	英語ⅠⅠ	英語ⅡⅠ	医療英語Ⅰ					5単位以上 (必修科目3 単位を含む)
	選択	日本語表現Ⅰ	中国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	英語ⅢⅠ				
専門基礎教育科目	必修	解剖生理学ⅠⅡ 解剖生理学ⅡⅡ	解剖生理学演習Ⅰ 分子医化学Ⅱ						7単位
	必修	医療総論Ⅰ	臨床工学総論Ⅰ 生体防御学Ⅰ	微生物学Ⅱ 公衆衛生学Ⅱ	分子病態生理学Ⅰ 臨床薬理概論Ⅰ		医療コミュニケーション論Ⅰ	チーム医療Ⅰ	
	必修	応用数学Ⅰ 電気工学ⅠⅡ 基礎工学演習ⅠⅠ	電気工学ⅡⅡ 計測工学Ⅱ 電気工学実習Ⅰ	病理学Ⅱ	基礎工学演習ⅠⅠ		臨床工学応用演習Ⅰ		
	選択		物性工学Ⅱ	機械工学ⅡⅡ 電子工学ⅡⅡ					
臨床工学に必要な 理工学的基礎	必修	情報処理ⅠⅡ		システム工学Ⅱ		プロジェクトスキルⅠⅠ			22単位以上 (必修科目20 単位を含む)
	選択		情報処理ⅡⅡ 医療情報学Ⅱ						
臨床工学に必要な 医学的基礎	必修					プロジェクトスキルⅡⅠ			8単位以上 (必修科目6 単位を含む)
	選択								

臨床工学科

科目 区分	1年		2年		3年		4年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	医 工 学 生 体	医用工学概論 [2] 医用機器学概論 I [2]	医用工学演習 I [1]	医用機器学概論 II [2]				医用工学演習 II [1]	8単位
	必修		医用治療機器学 [2] 生体計測装置学 [4]	循環器治療機器学 I [1] 消化器治療機器学 [1]	医用治療機器学実習 [1] 生体計測装置学実習 [1] 臨床支援技術学 [2]	循環器治療機器学 II [2]	臨床支援技術学実習 [1]	医用治療機器学演習 [1] 生体計測装置学演習 [1]	19単位以上 (必修科目18 単位を含む)
	必修	臨床支援技術学基礎 演習 [1]				臨床機器学各論 I [1] 臨床機器学各論 II [1] 臨床機器学各論 III [1] 臨床機器学各論 IV [1]			
	選択								
生 体 機 能 代 行 技 術 学	必修		生体機能代行装置学 I [4]	生体機能代行装置学 演習 I [1] 生体機能代行装置学 実習 I [1]	生体機能代行装置学 I [2] 血液透析療法装置学 I [2]	生体機能代行装置学 II [1] 生体機能代行装置学 II [2] 生体機能代行装置学 実習 II [2]	生体機能代行装置学 II [2] 血液透析療法装置学 II [2]		18単位以上 (必修科目17 単位を含む)
	選択					血液浄化療法装置学 [1] 呼吸療法装置学 [1] 体外循環療法装置学 [1]			
医 療 安 全 学	必修		医用機器安全管理学 I [2]		医用機器安全管理学 II [2]	医用機器安全管理学 実習 [1]	医療安全管理学 [2]		7単位
関 連 医 学 臨 床	必修			臨床医学総論 I [1]	臨床医学総論 II [1] 臨床医学総論 III [1]	臨床医学総論 IV [1] 臨床医学総論 V [1]	臨床医学演習 [2]		7単位
臨 床 実 習	必修						臨床実習 [7]		7単位
卒 業 研 究	必修						卒業研究 [4]		4単位

必修科目	35	37	24	28			124単位
選択科目	21	6	8	0			35単位
計	56	43	32	28			159単位
CAP制(履修上限)	48単位	45単位	38単位	29単位			160単位

○卒業要件 138単位以上 必修124単位 選択14単位以上

○ [] 内は、単位数

〈カリキュラム・マップ 臨床工学科〉

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）					
	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	相手を思いやる豊かな人間性を有し、科学的な思考力を基に共生社会の発展に貢献する資質	適切なコミュニケーション能力、協調する力を身に付け、常に患者を意識し他職種の医療従事者と連携・協働ができる能力	臨床工学の専門的な知識や技術を身に付け、多様化・高度化する医療機器の適切な操作や安全管理できる能力	工学的な研究の基礎を身に付けた能力	生涯にわたり自己研鑽する意欲と自己学修力を身に付けている
1 年次履修	物理学（基礎） 化学 生活と運動 健康とスポーツ 数学 倫理学 生命倫理 法学 教育学 北海道史 日本語表現 英語Ⅰ 物理学（応用） 生物学 数学（統計学） 生命科学 コミュニケーション学 医療と哲学 医療と社会 英語Ⅱ 中国語	心理学 人間関係の科学 文化人類学 日本語表現 コミュニケーション学 臨床支援技術学基礎演習	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 医療総論 解剖生理学演習 分子医化学 医用機器学概論Ⅰ 臨床工学総論 生体防御学 臨床支援技術学基礎演習	応用数学 電気工学Ⅰ 情報処理Ⅰ 物理学（基礎） 数学 電気工学Ⅱ 物性工学 計測工学 電気工学実習 情報処理Ⅱ 医療情報学 医用工学概論 数学（統計学） 基礎工学演習Ⅰ	医療総論 情報処理Ⅰ 臨床工学総論 医療情報学 情報処理Ⅱ
2 年次履修	ボラティア論 韓国語 医療英語 プロジェクスキルⅠ	プロジェクスキルⅠ 公衆衛生学 生体機能代行装置学実習Ⅰ	病理学 医用治療機器学 生体機能代行装置学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅰ 微生物学 医用機器学概論Ⅱ 生体計測装置学 循環器治療機器学Ⅰ 消化器治療機器学 生体機能代行装置学実習Ⅰ 臨床医学総論Ⅰ 生体機能代行装置学演習Ⅰ	機械工学Ⅰ 電子工学Ⅰ 材料工学 電子工学実習 システム工学 医用工学演習Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅰ 機械工学Ⅱ 電子工学Ⅱ	医用機器安全管理学Ⅰ システム工学 プロジェクスキルⅠ 生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学演習Ⅰ

3 年次履修	英語Ⅲ プロジェクトスキルⅡ	プロジェクトスキルⅡ 生体機能代行装置学実習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床支援技術学	分子病理生理学 臨床薬理概論 医用治療機器学実習 生体計測装置学実習Ⅰ 血液透析療法装置学Ⅱ 医用機器安全管理学Ⅱ 臨床医学総論Ⅱ 臨床医学総論Ⅲ 循環器治療機器学Ⅱ 臨床機器学各論Ⅰ 臨床機器学各論Ⅱ 臨床機器学各論Ⅲ 臨床機器学各論Ⅳ 生体機能代行装置学Ⅱ 生体浄化療法装置学 呼吸療法装置学 体外循環療法装置学 生体機能代行装置学実習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床医学総論Ⅳ 臨床医学総論Ⅴ 臨床支援技術学 生体機能代行装置学演習Ⅱ	医用治療機器学実習 生体計測装置学実習 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学Ⅱ 基礎工学演習Ⅱ	医用機器安全管理学Ⅱ 医用治療機器学実習 生体計測装置学実習 生体機能代行装置学実習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 プロジェクトスキルⅡ 生体機能代行装置学演習Ⅱ
4 年次履修	臨床実習 医療コミュニケーション論	臨床実習 チーム医療 医療コミュニケーション論 臨床支援技術学実習	生体機能代行装置学Ⅲ 血液透析療法装置学Ⅱ 臨床実習 医療安全管理学 臨床医学演習 医用治療機器学演習 生体計測装置学演習 チーム医療 臨床支援技術学実習	臨床工学応用演習 臨床実習 医療安全管理学 卒業研究 医用工学演習Ⅱ 基礎工学演習Ⅲ	医療安全管理学 臨床実習 卒業研究 チーム医療

Ⅲ 総合福祉学部

Ⅲ-1 総合福祉学部

1. 概要

1) 学部の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標に基づき、総合福祉学部における卒業時の到達目標である学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は、以下のとおりとする。

1. 専門職としての価値を備え、生活課題が生じる個人と環境との関係について具体的に説明できる能力を身につける
2. 具体的な個人や家族の生活課題をアセスメントで明らかにし、生活課題の解決に向けて支援計画を作成し実施することを説明できる能力を身につける
3. 具体的な地域の生活課題をアセスメントで明らかにし、生活課題の解決に向けた支援計画を作成し実施することを説明できる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

学部のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 保健・医療・福祉に携わる一員として、社会福祉及び経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 介護福祉、ソーシャルワーク、マネジメントに関する専門科目を専門教育科目に配置する
4. 主体的に学べるケーススタディ（CS）、問題解決型学習（PBL）などのアクティブ・ラーニングを用いた実践力養成の科目を配置する
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

養成する人材像やディプロマ・ポリシーに定める修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、総合福祉学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりとした。

1. 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設や医療機関等の組織のマネジメントや支援システムの運営管理に関心のある人
5. サービスの開発・企画や地域の課題解決を考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の基本理念に基づき、総合福祉学部の養成する人材像は、以下のとおりである。

1. 人間に対する尊厳という価値のもとで、人々の「社会生活」の視点から支援できる人材
2. 地域共生社会の構築に向けて、個人が生活していく上での課題を明らかにし、支援計画を立案して課題解決を図っていく能力を有した人材
3. 地域共生社会の構築に向けて、地域に存在する生活課題を明らかにし、支援計画を立案して解決していく能力を有した人材

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

1 学部 2 学科の利点を生かし、保健・医療・福祉に関する基礎的な科目と保健・医療・福祉の経営に関する基礎的な科目を相互に学びあうことができるように必修科目を配置する。必修科目とした「医療福祉とマネジメント」は、保健・医療・福祉とマネジメントの入門科目であり、保健・医療・福祉とマネジメントの基礎的知識を学修することができる。また、利用者をどのように捉えるかの学びとして、「社会学と社会システム」、「ケアマネジメント論」の科目を置き、介護福祉マネジメント学科の学生は「社会福祉の基礎」、ソーシャルワーク学科の学生は「経営の基礎」を学修することが目的となる。

さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいたマネジメント能力の高い実践力を育てることを目指している。

(2) 教育課程の編成

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

また、1 学部 2 学科の利点を生かし、保健・医療・福祉に関する基礎的な科目と保健・医療・福祉の経営に関する基礎的な科目を相互に学びあうことができるように必修科目を配置する。必修科目とした「医療福祉とマネジメント」は、保健・医療・福祉とマネジメントの入門科目であり、保健・医療・福祉とマネジメントの基礎的知識を学修することができる。また、利用者をどのように捉えるかの学びとして、「社会学と社会システム」、「ケアマネジメント論」の科目を置き、介護福祉マネジメント学科の学生は「社会福祉の基礎」、ソーシャルワーク学科の学生は「経営の基礎」を学修することが目的となる。

さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいたマネジメント能力の高い実践力を育てることを目指している。

■介護福祉マネジメント学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

介護福祉マネジメント学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
2. 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画を作成、実施、評価ができ、それを他の介護職に指導できる能力を身につける
3. 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける
4. 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける
5. 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わることができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

介護福祉マネジメント学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を修得させるため、「社会福祉の基礎」及び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 専門職のための技能を修得するための専門教育科目を配置する
4. 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

介護福祉マネジメント学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 介護福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設、医療機関等の組織の経営、運営管理について論理立てて考える力がある人
5. 新しいソーシャルビジネスやサービスを開発・企画することを論理立てて考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた人材を育成します。

1. 生活を支援する視点で、利用者のアセスメント、介護計画の作成、実施、評価に基づく介護過程が遂行でき、そのことを他者に指導できる人材

2. マネジメントに関する専門的知識を修得し、介護職員等をマネジメントする能力を有した人材
3. マネジメントする専門的能力を身につけ、社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わるマネジメント能力を有した人材

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

教育課程は「基礎教育科目（卒業要件・24単位）」、「専門基礎教育科目（卒業要件・40単位）」、「専門教育科目（卒業要件・60単位）」の3区分で編成する。「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、区分では初年次より対人マネジメント・経営教育を履修させ、基礎能力を充実させた後に、「専門教育科目」区分において学生各々の卒業後の進路に合わせて必要とする教育科目を施す。

なお、介護福祉士の受験資格取得を目指す者については科目区分の概要の各項目の中で対応を記載した。

特徴としては、「基礎教育科目」段階にて運営管理手法の教育における導入科目4科目・6単位を必修科目と位置づけ、次年次の経営関連科目の素養を吸収できるよう履修させる。他に本区分では健康科学2単位、語学4単位も卒業必修科目とする。

「専門基礎教育科目」の『経営の基礎』の科目領域は本学科の基幹的科目で構成され、他の職種への理解のための知識の修得、事業経営戦略を策定するために模擬体験を活用した実践的な経営知識を修得、さらに実践的なフィールドにおける地域医療、福祉サービスの組織経営、さらに介護施設経営に関する対象組織の経営に関する知識の修得と応用力の修得を目指す科目を必修科目として配置した。

「専門教育科目」では卒業後活躍する進路に合わせて領域を設置する。主に社会福祉施設等の事業運営について理解するための科目領域の『医療管理と実務』と、経営学理論や概念の理解への科目領域の『マネジメント理論』、医療福祉活動を中心として地域開発に関する科目領域の『地域マネジメント』を設置した。

また、介護福祉を基礎にしたマネジメント能力を身につける科目領域として『介護福祉』を配置し、地域開発に関する領域も合わせ、各領域の科目を混合させて履修させる。

「総合科目」は他の2区分での学びを集約し、各々の目指す進路・職業のために少人数制のゼミナール形式での教育を実施する。3年次の「専門演習Ⅰ」は、ゼミナリステンの目指す専門分野のテーマに沿って希望し、選択するものとし、4年次の「専門演習Ⅱ」まで連続させる。また「専門教育科目」を除く2つの科目区分において、総合福祉学部としてソーシャルワーク学科と共有できる知識と技能の修得を可能とし、特に医療・福祉制度及び公共政策等の理解、さらに実践的な福祉・介護施設の経営に関しての科目を中心に履修させる

(2) 教育課程の編成

本学の基本理念、「介護福祉マネジメント学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。

基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類しました。

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶための科目を配置しました。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類しました。専門教育科目は、介護・福祉で求められる知識と技術を確実に修得すること、さらに介護・福祉の専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置しました。

（３）教育課程進度表

① 教育課程編成方針

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の３区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディや問題解決型学習を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

これらを達成するために、科目の配置はカリキュラム・ポリシーに基づいている。

② 学年の特徴

１年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、１年次から「専門基礎教育科目」を配置し、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としています。

２年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

３年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

４年次では、３年次までの学修に加え、さらなる広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 介護実習

介護実習は介護福祉士の資格取得を目指す学生のために配置し、介護福祉士国家試験受験資格取得要件として26科目72単位のうち10単位を占める４科目である。介護実習は、「介護実習Ⅰ」と「介護実習Ⅱ」に区分されており、本学科では、２年次に「介護実習Ⅰ型基礎」「介護実習Ⅱ型基礎」、３年次に「介護実習Ⅱ型応用」、４年次に「介護実習Ⅰ型応用」を配置する。「介護実習Ⅰ型基礎」では、実習施設の目的・機能やそこで働く専門職の職務を知り、利用者との関わりを通して個別性を理解する。「介護実習Ⅱ型基礎」では、生活場面での実践を見学しつつ支援の根拠を正しく捉え、個別ケアに向けて生活課題を捉えるための情報収集を実践的に展開する。「介護実習Ⅱ型応用」では、利用者との相互関係を基盤とした介護過程の展開を中核に、基本的な生活支援技術の実践・習得および同職種・多職種間協働の実際に触れる機会とする。「介護実習Ⅰ型応用」は、サービス利用者の地域生活を支えるべく支援方法を知り、介護福祉士の社会的役割や機能を総合的に理解する実習とする。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個別性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をととして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

■ソーシャルワーク学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

ソーシャルワーク学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
2. 保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識や技術に関する能力を身につける
3. 利用者主体の生活支援として、ソーシャルワークの展開過程を実施できる能力を身につける
4. 利用者やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援・集団支援）する能力を身につける
5. 地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）する能力を身につける
6. 個別支援・集団支援から地域支援へ、地域支援から個別支援・集団支援への連続した支援ができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に関する科目を専門教育科目に配置する
4. ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通して、アクティブ・ラーニングによる問題解決プログラムに関する科目を配置する
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

ソーシャルワーク学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を实践する意欲ある人材を求める。

1. 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設や医療機関等の支援システムの運営管理に関心のある人
5. 本人や地域の課題解決について考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えたソーシャルワーカーを育成します。

1. 地域共生社会の構築に向けて、保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識を修得し、多職種連携のもとで、ソーシャルワークが実践できる人材
2. 利用者主体で、個人やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援・集団支援）できる人材
3. 住民主体で、地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）ができる人材
4. 個人や家族への支援である個別支援・集団支援と、地域への支援である地域支援を連続して支援できる人材

3) 教育課程

（1）カリキュラムの特色と構成概念

本学の基本理念、「ソーシャルワーク学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。

基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類しました。

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶための科目を配置しました。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類しました。専門教育科目は、ソーシャルワークで求められる知識と技術を確実に修得すること、さらにソーシャルワークの専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置しました。「ソーシャルワークの理論と方法」及び「管理運営の実践」において、知識・技術を学び、「ソーシャルワーク演習」においては演習を通して知識と技術を統合し、「ソーシャルワーク実習」ではこれまで学んだものを、実践できるよう具体化していくのが目的です。さらに「総合科目」として、マネジメントケーススタディとなる「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）は選択科目とします。体験学修や事例検討などを行うことで高い実践力を育てることを目指します。

（2）教育課程の編成

本学の基本理念、「ソーシャルワーク学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類した。専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶ

ための科目を配置した。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類した。専門教育科目は、ソーシャルワークで求められる知識と技術を確実に修得すること、さらにソーシャルワークの専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置した。「ソーシャルワークの理論と方法」及び「管理運営の実践」において、知識・技術を学び、「ソーシャルワーク演習」においては演習を通して知識と技術を統合し、「ソーシャルワーク実習」ではこれまで学んだものを、実践できるよう具体化していくのが目的である。さらに「総合科目」として、マネジメントケーススタディとなる「基礎演習Ⅰ」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）は選択科目とする。体験学修や事例検討などを行うことで高い実践力を育てることを目指す

（3）教育課程進捗表

① 教育課程編成方針

ソーシャルワーク学科では、保健・医療・福祉分野において、これまでの枠の中での狭い範囲のソーシャルワークではなく、複数分野の問題や複雑に絡む問題を抱える対象者や世帯への支援を分野横断的かつ包括的に考え実践できる専門的知識と技術を備えた人材を養成するため、カリキュラム・ポリシーに基づいて教育課程を編成する。

なお、編成にあたっては、ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成した。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」を配置し、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としています。

2年次では、「専門基礎教育科目」「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ ソーシャルワーク実習

社会福祉士取得を目指す「ソーシャルワーク実習Ⅰ」では、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うとともに、支援を必要とする人や地域の状況をICF（国際生活機能分類）の視点を踏まえた社会生活モデルに基づきアセスメントし、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。その把握した課題に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した問題解決プログラムの作成、実施及びその評価ができる能力を修得する。さらには、包括的・重層的な地域生活支援に必要な関連分野の専門職との連携のあり方、及びその具体的内容を実践的に理解することを目的としています。2年次の「ソーシャルワーク実

習指導Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の学びを経て実習を配置しています。

精神保健福祉士資格取得を目指す「ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）」では、を通して、『精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解』や『精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識』に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得するとともに、その生活実態や生活上の課題について具体的に把握する。また、実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応し、問題解決するプログラムを作成できる能力を修得する。さらには、包括的・重層的な地域生活支援に必要な関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をととして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

2. 履修について

履修とは、「必修・選択科目を確認のうえ単位修得を希望する科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を熟読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように、履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

（2022年度以降入学生）

学年	1年間の上限
1年	45単位
2年	45単位
3年	45単位
4年	45単位

2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録変更のスケジュールは該当年度の『履修の手引き』及び掲示等で確認してください。

3) 履修登録変更期間

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

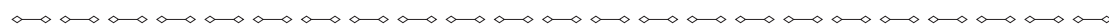
履修登録変更の手続きについての詳細は該年度の『履修の手引き』及び掲示等で周知されます。

4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。『履修の手引き』と『シラバス』等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ①すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ②教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ソーシャルワーク実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。



ソーシャルワーク実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければならない。

実習科目	先修要件
ソーシャルワーク実習Ⅰ	2年次後期の配当科目のソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3年次後期の配当科目のソーシャルワーク実習指導Ⅲを修得していること。

3. 単位修得について

(1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

介護福祉マネジメント学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	12単位	10単位	8単位	30単位
選択単位	12単位以上	30単位以上	52単位以上	94単位以上
小計	24単位以上	40単位以上	60単位以上	124単位以上

ソーシャルワーク学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	12単位	31単位	18単位	61単位
選択単位	12単位以上	21単位以上	30単位以上	63単位以上
小計	24単位以上	52単位以上	48単位以上	124単位以上

(2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
演習・実習	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実習のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に講義、演習、実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

(3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

介護福祉マネジメント学科

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目（卒業要件：24単位以上）

基礎教育科目は4つの科目領域に大別し、一般的な教養科目を基盤とし、カリキュラム・ポリシー(CP1)により、介護・福祉に関連する分野の知識や考え方、これら分野において対象となる人間そのものや、人間としての生き方や在り方などが学べる科目を中心に配置する。科目領域を『人間と文化』、『人間と社会』、『健康科学』及び『語学』にわけ、24単位以上を卒業必要単位数と定め、幅広く偏りなく知識を養うことを目的として配置する。

ア. 人間と文化（8単位以上）

配当年次を1・2年次とし、文化や社会生活に関連する科目を配置し、これからの人材が、サービスや対人支援に携わることを想定し、人間理解の重要性を踏まえ「人間関係のコミュニケーション」、「倫理学」、「心理学と心理的支援」、「発達心理学」の4科目などを中心に配置した。科目選択の自由度を上げるため、広範な教養科目を設置し11科目19単位の中から8単位以上を履修させる。

イ. 人間と社会（10単位以上）

社会科学分野の基本的な知識、教養を身につけるための科目を、配当年次1・2年次とし、入学後の初年次から専門の導入的側面を持つ科目を修得させ、「法学入門」、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学」の4科目を必修科目とし、6単位の取得を卒業要件とする。残りの科目のうちから合わせて10単位以上を履修させ卒業要件とする。

ウ. 健康科学（2 単位以上）

配当年次を 1・2 年次とし、健康科学に関する科目、「生活科学」、「環境科学」、「健康とスポーツⅠ・Ⅱ」を配置し、4 科目 6 単位の中から「健康とスポーツⅠ」を必修科目とし、2 単位を卒業要件とする。

エ. 語学（4 単位以上）

日本語を含めた 4 か国語を学べる科目配置である。必修科目の「日本語表現」は、近年のコミュニケーション能力の課題である読解力や文章力、レポートの書き方など大学生に必要な日本語の知識を正しく学び、社会人基礎力としての正しい敬語やビジネス文書の作成等ができるよう、その基礎力を養う。外国語では、グローバルな視点で北海道の地域性を加味し、医療関連事業の海外進出をする際、強みとなるよう「中国語」、「韓国語」を学ぶ科目を配置し、近隣アジアの言語を学ぶ機会とする。また、英語科目は「英語Ⅰ基礎」を必修科目とし、続く「実践基礎」、「実践応用」と積み上げ方式で、より高度な英語力を身につけさせる機会を提供する。これら 6 科目 12 単位のうち 4 単位以上の履修を卒業要件とする。

（2）専門基礎科目（卒業要件：40 単位以上）

専門基礎科目は、『社会福祉の基礎』、『経営の基礎』の科目領域にわけ、前者は社会福祉施設・医療機関等における制度的な側面を主に自由度をもって修得させる。後者は、社会福祉施設や関連する地域社会の運営管理のマネジメントに関する経営理論を修得するために必要な介護・福祉の基礎知識を修得させ、本学科の基幹科目を形成する。

ア. 『社会福祉の基礎』

『社会福祉の基礎』では 1 年次に配置する「医療福祉とマネジメント」及び「医学概論」で、学部・学科に入学した学生に対して今後の大学教育の全体像を示す科目とし必修科目とする。さらに、総合福祉学部での学びとして、修得しておきたい福祉や医療に関連する制度的な基本的知識を修得できるよう科目を配置した。上記の必修科目の他、以下の科目を配置する。

社会福祉の意義を示す科目である「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」は、総合福祉学部の学びの根源であるため、通年で学び、大学 4 年間通して医療福祉にかかわり社会に貢献する者としての動機づけとも意図している。ほかには「社会保障Ⅰ・Ⅱ」、「社会の理解Ⅰ・Ⅱ」、「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」など特徴的な異なる分野の科目を配することで、履修する学生の興味や将来への視野を広く持てるよう配慮する。

また、人を対象としたサービス産業としての介護福祉にかかわる人材に必須と考えられる対象者への理解と具体的な支援の技術を修得できる科目を配置している。ここでは福祉系の科目と医療系の科目を複数配置しているが、いずれの領域にも共通して必要な科目として配置している。「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」は、介護領域での必須の科目でもあるが、認知症という疾患が多様で複合的な症状を呈するものであり、また、認知症のその人だけでなく、家族や地域の問題としての対応が求められるものでもあるため、時間をかけて理解する必要がある、「認知症研究所」を附属施設に持つ本学に特徴的な科目として、超高齢社会を支える人材の持つべき知識として学部内において共有できるようにする。また、「コミュニケーション技術」は、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的理解やチームマネジメントの基礎的な知識として、必須科目で単なる知識を超え、実践的な能力が問われる場面で活用できるよう配置する。

介護福祉士の資格取得を目指す場合は、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点や地域という観点か

ら生活と社会の関係性を体型的に学修する「社会の理解Ⅰ・Ⅱ」、障害のある人や認知症のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を修得する「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」、「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」、「コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ」を学修することが必要である。

イ.『経営の基礎』

「医療のしくみ」「地域医療連携とチーム医療」では、多職種連携への理解の前提となる知識を学ばせる科目として、さらに「経営戦略」で基礎的な経営知識を修得させたのち、実践的な必修科目「地域活性化と地域医療」、「福祉サービスの組織と経営」、「介護施設経営」を履修させ適応力の修得を育成させる。必修科目とし3科目6単位を設定する。

さらに、「統計解析」、「会計学Ⅰ」、「簿記」の社会科学分野の科目も合わせて配置している。

(3) 専門教育科目（卒業要件：60単位以上）

専門教育科目は、介護福祉マネジメント分野で求められる知識と技術を修得し、さらに医療にかかわる幅広い役割で活躍できるよう配置した。その際、主体性をもって他者と協働し、問題解決に向かうことができるよう、ケーススタディ教育を多く取り入れ、多様な状況への適応力を体得させるための科目を配置した。科目構成は『マネジメント理論』、『医療管理と実務』、『地域マネジメント』、『介護福祉』、『総合科目』の5つの領域に分かれ、分野に特異な履修モデルを提供している。

また、介護福祉士の資格取得を目指すには、介護福祉科目として29科目70単位を履修することができる。

ア.『マネジメント理論』

修得科目として、「医療経営戦略」、「企業法務」、「経営管理論」、「人的資源管理論」、「組織心理学」、「医療流通システム論」、「医療マーケティング」、「会計学Ⅱ」、「原価計算」、「監査論」、「医療経済学」を配置し、経営に必須の技術である経理および、それらからなる財務の知識理解し、また、組織の運営管理のマネジメントに必要な理論や原則を学び、経営実務に役立てるための科目を配置している。

イ.『医療管理と実務』

病院や医療関連施設の組織の運営管理に関連する科目であり、「医療管理総論」、「医療管理各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「医療関連法規」、「医療安全・臨床倫理」を配置し、主としてケーススタディ（CS）を中心として構成するこれらの科目学び、ディスカッションやプレゼンテーション、シミュレーションや施設見学を通じて、病院や医療関連施設のしくみと医療経営の実際を知り、基本的な知識や思考、姿勢を身につける。

ウ.『地域マネジメント』

保健・医療・福祉分野から地域を対象とし、課題解決のための科目として、「持続可能社会と地域医療福祉経営」、「事業構想論」、「サービス産業論」、「ソーシャル・ビジネス」を配置し、地域社会と、事業の創造について学び、公共性の高い事業である医療福祉による地域の活性化や社会貢献への期待に応えられるよう、知識基盤を築くことができる科目を配置した。

エ.『介護福祉』

介護福祉士の資格取得を目指す学生のために配置した科目領域である。国家試験受験資格取得要件として

介護福祉科目26科目72単位を履修することが必要となる。

「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」では、人間の成長と発達過程における身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を修得する。

また、「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」では、介護を必要とする人の生活を支援する介護実践に必要な観察力・判断力の根拠となる人体の構造や機能についての知識を獲得する。

「介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、介護実践の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性・連続性を支援するしくみを理解し、介護福祉専門職としての介護観や態度を養う。

「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、他科目で修得した知識を統合し、本人の望む生活の実現にむけた生活課題の分析と、さらには、根拠に基づく介護実践のための思考過程の展開能力を修得する。

「生活支援技術ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」は、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づく介護実践のための知識・技術を修得する。

「介護総合演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」は、他科目で学ぶ知識と技術の統合し、学びを深化させるとともに実習での実践体験を通して自己課題を明確化と専門職としての態度を養い、実習前後の学修科目として位置付ける。

「介護実習Ⅰ型基礎・Ⅰ型応用・Ⅱ型基礎・Ⅱ型応用」では、地域における様々な生活の場において対象者の個別性を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を実践する基礎的な能力を習得する。また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種協働の中で介護過程を実践する能力を養う。

医療的ケアが必要な人の生活を支えるという観点から、医療職との連携・協働のもとに医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する「医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や、認知症の人が住み慣れた地域の中で支援を受けながら自分らしく暮らし続けられるような視点や社会資源について学修する「認知症ケア論」等、介護実践に必要な幅広い知識・技術を修得することを目指す。

オ. 総合科目（卒業要件：6単位以上）

総合科目は他の2区分の学びを、演習を通じて社会で実践できるよう、形式知を応用し活用するための科目である。「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）を選択科目とする。

演習科目は、少人数制とし、ゼミナリストンが個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究により、その専門性を探究できるよう支援する。卒業研究を選択する学生には、演習の成果の論文作成指導を行い、進学を希望する学生には、卒後の高度専門教育につなぐ指導方法をとる。

以上による各科目とディプロマ・ポリシーとの具体的な対応関係を全シラバスに示し、学科のカリキュラム・マップで修得できる科目の配置を示した【資料18】。

また、カリキュラム・ツリーには、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの関連性、さらに科目履修の順序と配当年次を示し、学修した知識と技術を体系的に修得できるように、年次を追って発展させるように教育課程を編成した【資料19】。

＜カリキュラム・マップ＞
介護福祉マネジメント学科＞

区分		学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）：DP				
		DPI	DP2	DP3	DP4	DP5
履修年次	学	1. 人間を尊重する態度と深い倫理観を養い、人間を統合的に存在として理解する能力を身につける	2. 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画の作成、実施、評価ができる。そのことを他の介護職に指導できる能力を身につける	3. 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける	4. 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける	5. 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関与することができる能力を身につける
	前期	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 経営学入門（必1） 統計学Ⅱ（選2） 会計学入門（必2） 健康とスポーツⅠ（必2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	経営学入門（必1） 心理学Ⅱ（選2） 統計学Ⅱ（選2） 会計学入門（必2）
1 年次履修	後期	北海道史（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） ボランティア活動（選1） 法学入門（必1） 経済学入門（選1） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） ボランティア活動（選1） 心理学Ⅱ（選2） 社会学Ⅱ（選2） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） 社会学Ⅱ（選2） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 生活科学（選1）	ボランティア活動（選1） 法学入門（必1） 経済学入門（選1） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2）
	後期	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護過程Ⅰ（選2） 基礎演習（必・通年2） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1）	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 基礎演習（必・通年2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2）
2 年次履修	前期	薬理学Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 薬理学Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選2） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 薬理学Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選2） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	薬理学Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） リハビリテーション論（選2） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）
	後期	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡA（選4） 介護総合演習ⅡA（選1） 介護実習Ⅰ型基礎（選1） 文化人類学（選2） 文学Ⅱ（選1） 英語Ⅲ（実践応用）（選2） 認知症の理解Ⅰ（選2）	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡA（選4） 介護総合演習ⅡA（選1） 介護実習Ⅰ型基礎（選1） 文化人類学（選2）	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡA（選4） 介護総合演習ⅡA（選1） 介護実習Ⅰ型基礎（選1） 文化人類学（選2）	介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡA（選4） 介護総合演習ⅡA（選1） 介護実習Ⅰ型基礎（選1） 文化人類学（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（選2） 社会の理解Ⅱ（選2） 社会保険Ⅱ（選2） 保健医療と福祉（選2） 公衆衛生学（選2） 認知症の理解Ⅱ（選2）
履修年次	学	1. 人間を尊重する態度と深い倫理観を養い、人間を統合的に存在として理解する能力を身につける	2. 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画の作成、実施、評価ができる。そのことを他の介護職に指導できる能力を身につける	3. 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける	4. 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける	5. 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関与することができる能力を身につける
	前期	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 経営学入門（必1） 統計学Ⅱ（選2） 会計学入門（必2） 健康とスポーツⅠ（必2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 福祉の支援（選2） 日本語表現（必2）	経営学入門（必1） 心理学Ⅱ（選2） 統計学Ⅱ（選2） 会計学入門（必2）
1 年次履修	後期	北海道史（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） ボランティア活動（選1） 法学入門（必1） 経済学入門（選1） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） ボランティア活動（選1） 心理学Ⅱ（選2） 社会学Ⅱ（選2） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学Ⅱ（選2） 社会学Ⅱ（選2） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 心理学Ⅱ（選2） 生活科学（選1）	ボランティア活動（選1） 法学入門（必1） 経済学入門（選1） マーケティング入門（必2） 情報科学Ⅱ（選2） 簿記入門（選2） 環境科学Ⅱ（選2）
	後期	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護過程Ⅰ（選2） 基礎演習（必・通年2） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護の基本Ⅰ（選4） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1） 基礎演習（必・通年2） 人間の尊厳と自立（選2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	医学概論（必2） コミュニケーション技術Ⅰ（選1） 介護過程Ⅰ（選2） 生活支援技術ⅠB（選2） 介護総合演習ⅠA（選1）	社会福祉の原理と政策Ⅱ（選2） 基礎演習（必・通年2） 政治学入門（選2） 行政学Ⅱ（選1） 社会学Ⅱ（選2） 社会システム（選2）
2 年次履修	前期	薬理学Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 薬理学Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選2） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 薬理学Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） ICFの理解（選2） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	薬理学Ⅰ（選2） コミュニケーション技術Ⅱ（選1） リハビリテーション論（選2） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（選2） 社会の理解Ⅰ（選2） 社会保険Ⅰ（選2） ICFの理解（選1） 統計学Ⅲ（選2） 簿記Ⅱ（選2）
	後期	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡB（選4） 介護総合演習ⅡB（選1） 介護実習Ⅱ型基礎（選3） 文化人類学（選2） 文学Ⅱ（選1） 英語Ⅲ（実践応用）（選2） 認知症の理解Ⅱ（選2）	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡB（選4） 介護総合演習ⅡB（選1） 介護実習Ⅱ型基礎（選3） 文化人類学（選2）	こころとからだのしくみⅠ（選4） 介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡB（選4） 介護総合演習ⅡB（選1） 介護実習Ⅱ型基礎（選3） 文化人類学（選2）	介護過程Ⅱ（選2） 生活支援技術ⅡB（選4） 介護総合演習ⅡB（選1） 介護実習Ⅱ型基礎（選3） 文化人類学（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（選2） 社会の理解Ⅱ（選2） 社会保険Ⅱ（選2） 保健医療と福祉（選2） 公衆衛生学（選2） 認知症の理解Ⅱ（選2）

介護福祉マネジメント学科

区分		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
履修年次	学期	1. 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける	2. 利用者のアセスメントから生涯課題を明らかにして、介護計画の作成、実施、評価ができ、そのことを他の介護職に指導できる能力を身につける	3. 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける	4. 介護職員のリダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける	5. 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持・開発に関わることができる能力を身につける
3 年次 履修		家族社会学 (選 2)				家族社会学 (選 2)
	前期	認知症の理解Ⅱ (選 2) 障害の理解Ⅰ (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 地域医療連携とチーム医療 (選 2) 地域活性化と地域医療 (必 2)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 障害の理解Ⅰ (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 地域医療連携とチーム医療 (選 2) 地域活性化と地域医療 (必 2)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 障害の理解Ⅰ (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 地域医療連携とチーム医療 (選 2) 地域活性化と地域医療 (必 2)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 障害の理解Ⅰ (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 地域活性化と地域医療 (必 2) 経営分析論 (選 2)	医療ソーシャルワーク論 (選 2) 地域医療連携とチーム医療 (選 2) 地域活性化と地域医療 (必 2) 経営分析論 (選 2)
	後期	発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 監査論 (選 2) 発達と老化の理解Ⅱ (選 2) 介護実習Ⅱ型応用 (選 5) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	医療経済学 (選 2) 介護通科Ⅲ (選 2) 監査論 (選 2) 発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 生活支援技術Ⅲ A (選 2) 介護実習Ⅱ型応用 (選 5) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	医療経済学 (選 2) 介護通科Ⅲ (選 2) 監査論 (選 2) 発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 生活支援技術Ⅲ A (選 2) 介護実習Ⅱ型応用 (選 5)	発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 生活支援技術Ⅲ A (選 2) 介護実習Ⅱ型応用 (選 5) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	医療経済学 (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 監査論 (選 2) 発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 医療管理各論Ⅰ (選 2) 秘書学 (選 2) 診療報酬請求事務Ⅰ (選 2) 地域連携実践 (選 2) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)
	前期	認知症の理解Ⅱ (選 2) 障害の理解Ⅰ (選 2) 医療ソーシャルワーク論 (選 2) 発達と老化の理解Ⅰ (選 2) 介護通科Ⅲ (選 1) 生活支援技術Ⅲ B (選 4) 介護総合演習Ⅰ B (選 1) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	国際医療福祉論 (選 2) 障害の理解Ⅱ (選 2) ケアマネジメント論 (選 2) 福祉サービスの組織と経営 (必 2)	障害の理解Ⅱ (選 2) ケアマネジメント論 (選 2)	障害の理解Ⅱ (選 2) ケアマネジメント論 (選 2) 福祉サービスの組織と経営 (必 2)	国際医療福祉論 (選 2) ケアマネジメント論 (選 2) 福祉サービスの組織と経営 (必 2)
	後期	医療安全・臨床倫理 (選 2) 発達と老化の理解Ⅱ (選 2) 介護の基本Ⅲ (選 4) 生活支援技術Ⅲ B (選 4) 介護総合演習Ⅰ B (選 1) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	医療マーケティング (選 2) 文書作成技術 (選 2) 発達と老化の理解Ⅱ (選 2) 介護の基本Ⅲ (選 4) 生活支援技術Ⅲ B (選 4) 介護総合演習Ⅰ B (選 1)	医療マーケティング (選 2) 文書作成技術 (選 2) 発達と老化の理解Ⅱ (選 2) 生活支援技術Ⅲ B (選 4) 介護総合演習Ⅰ B (選 1) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	文書作成技術 (選 2) 発達と老化の理解Ⅱ (選 2) 生活支援技術Ⅲ B (選 4) 介護総合演習Ⅰ B (選 1) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)	医療マーケティング (選 2) 医療安全・臨床倫理 (選 2) 文書作成技術 (選 2) 診療報酬請求事務Ⅱ (選 2) 事業体論 (選 2) 専門演習Ⅰ (必、通年 2)
4 年次 履修	前期	リーダー論 (選 2) 福祉用具と福祉機器 (選 1)	リーダー論 (選 2) 福祉用具と福祉機器 (選 1)	リーダー論 (選 2) 福祉用具と福祉機器 (選 1) 介護施設経営 (必 2)	リーダー論 (選 2) 福祉用具と福祉機器 (選 1) 介護施設経営 (必 2)	リーダー論 (選 2) 福祉用具と福祉機器 (選 1) 介護施設経営 (必 2)
	後期	組織心理学 (選 2) 介護実習Ⅰ型応用 (選 1) 認知症ケアⅠ (選 4) 認知症ケアⅡ (選 2) 卒業研究 (選 通年 4)	医療的ケアⅠ (選 4) 認知症ケアⅡ (選 2)	介護実習Ⅰ型応用 (選 1) 医療的ケアⅠ (選 4) 認知症ケアⅡ (選 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	組織心理学 (選 2) 人的資源管理論 (選 2) 医療管理各論Ⅱ (選 2) 医療関連法規 (選 2) 介護報酬請求事務 (選 2) サージス産業論 (選 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	組織心理学 (選 2) 人的資源管理論 (選 2) 医療管理各論Ⅱ (選 2) 介護報酬請求事務 (選 2) サージス産業論 (選 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)
	前期	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) ソーシャルビジネス (選 2) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療管理各論Ⅲ (選 2) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) ソーシャルビジネス (選 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)
4 年次 履修	後期	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療的ケアⅢ (選 1) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)	認知症の理解Ⅱ (選 2) 医療管理各論Ⅲ (選 2) 持続可能な社会と地域医療福祉経営 (必 2) ソーシャルビジネス (選 2) 専門演習Ⅱ (必、通年 2) 卒業研究 (選 通年 4)

太字：必修科目

ソーシャルワーク学科

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目（必修科目12単位、選択科目45単位から12単位以上選択）

基礎教育科目は、一般的な教養科目を基盤とし、カリキュラム・ポリシー（CP1）のもと、人権や多様な個性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置した。保健・医療・福祉に関連する分野に貢献する者として備えておくべき知識や考え方、これら分野において対象となる人間そのものや、人間としての生き方などを学ぶことを目的としている。科目をテーマごとに「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類し、24単位以上を卒業要件と定め、幅広く偏りのない知識基盤を築くことを意図した。また選択の自由度を高めるため、科目数を広く設定するよう配置しました。

ア. 人間と文化（10単位以上）

配当年次を1・2年次とし、文化や社会生活に関連する科目を配置し、サービスや対人支援に携わることを想定し、人間理解の重要性を踏まえた科目を中心に配置した。科目選択の自由度を上げるため、広範な教養科目を設置し11科目19単位の中から10単位以上を履修させる。社会福祉士養成の指定科目である「心理学と心理的支援」を必修とし、さらに北海道という地域を理解することを重要視し「北海道史」についても必修とします。

イ. 人間と社会（8単位以上）

配当年次を1・2年次とし、社会科学分野の基本的な知識、教養を身につけるための科目を配置している。「法学入門」を必修とし、「政治学入門」、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学入門」など入門科目が中心となる。12科目20単位のうちから8単位以上の修得を必要とするが、社会福祉士養成の指定科目である「社会学と社会システム」については必修とします。

ウ. 健康科学（2単位以上）

配当年次を1・2年次とし、健康科学に関する科目、「生活科学」、「環境科学」、「健康とスポーツⅠ・Ⅱ」を設置し4科目6単位の中から2単位以上を履修します。

エ. 語学（4単位以上）

日本語を含めた4か国語を学べる科目配置である。「日本語表現」は、近年のコミュニケーション能力の課題である読解力や文章力、レポートの書き方など大学生に必要な母国語の知識を正しく学び、社会人基礎力としての正しい敬語やビジネス文書の作成等ができるよう、その基礎力を養う。外国語では、国際社会での活躍や、本学とも関係の深い中国、韓国など近隣アジアの言語を学ぶ機会とし、交流の際の強みとなるよう「英語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶ科目を配置した。また、「英語」は「基礎」、「実践基礎」、「実践応用」と積み上げ、より高度な英語力を身につける機会を提供しています。これら6科目12単位のうち4単位以上の履修を卒業要件とします。

(2) 専門基礎教育科目（必修科目31単位、選択科目29単位から21単位以上選択）

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉に携わる一員として基礎的な専門知識獲得と多職種連携と地域における実践を重視するため、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、多職種との連携、地域での実践及び経営を学ぶための科目を配置した。本科目の修得は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」、「経営の基礎」に分類し、主に1年次から3年次を中心に履修できるように科目を配置した。

ア.『社会福祉の基礎』（46単位以上）

ソーシャルワーク学科での学びとして、修得しておきたい保健・医療・福祉に関連する基本的な知識を修得できるよう配置した科目区分である。「医療福祉とマネジメント」（2単位）と「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」（4単位）、「ソーシャルワークの原理」（2単位）、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」（2単位）は、ソーシャルワーク学科の学びの根源であるため、1年次の必修科目とし、大学4年間を通して保健・医療・福祉に関わり、社会に貢献する者としての動機づけも意図している。2年次では「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」、「社会保障Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とし、地域における実践の理解や、社会保障制度の理解を目指す。また、ICF（国際生活機能分類）の視点を学ぶ科目として、「ICFの理解」を必修とし、「医学概論」、「リハビリテーション論」、「障害者福祉」、「ケアマネジメント論」の科目を配置し、理解を深める。福祉の支援を必要とする各対象分野の「貧困に対する支援」、「障害者福祉」、「高齢者福祉」、「児童・家庭福祉」などの科目を配置し、保健・医療・福祉に関わる人材に必須と考えられる対象の理解と、具体的な制度や支援の技術を修得できる科目を配置している。また、「医療ソーシャルワーク論」や「保健医療と福祉」を通じて、医療機関におけるソーシャルワークの理解や医療倫理、ソーシャルワーカーの役割、多職種連携などを学ぶ。さらには、諸外国の医療・福祉を理解する科目として「国際医療福祉論」の科目を配置することで、履修する学生の興味や将来への視野を広く持てるよう配慮した。そのほか、「カウンセリング」、「ケアマネジメント」等の対人援助職において重要な科目も、学生の将来によっては単なる知識のみではない実践的な能力が問われる場面も多く想定されるため、学生自身がその必要性を考えて選択履修できるように配置している。14科目27単位が必修であり、13科目25単位を選択科目として配置し、46単位以上を修得する。

イ.『経営の基礎』（6単位以上）

福祉や医療分野における基礎的な経営科目として4科目8単位を配置する。「福祉サービスの組織と経営」及び「介護施設経営」は必修とし、経営の基礎を理解することや、地域における連携などを学ぶことを目的とし、ソーシャルワークにおいても必要となるマネジメントについても学修する。2科目4単位が必修であり、2科目4単位を選択科目として配置し、6単位以上を修得する。

(3) 専門教育科目（必修科目18単位、選択科目67単位から30単位以上選択）

専門教育科目は、福祉や医療分野で求められるソーシャルワークを実践できる能力（知識と技術）を確実に修得すること、さらに社会人として実践現場で仕事をする際に、専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置する。また、各人の将来目標に応じた資格取得を実現するための科目を配置する。専門教育科目は「ソーシャルワークの理論と方法」、「管理運営の実践」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習」、「総合科目」に分類し、以下のように科目を配置する。

ア.『ソーシャルワークの理論と方法』

ソーシャルワークを実践できる能力の知識・技術についての講義科目を中心に配置する。「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」などのソーシャルワークに関する講義科目のほか、精神保健福祉士養成の指定講義科目を配置する。ソーシャルワークの知識・技術の修得を涵養し、演習科目、実習科目へとつなげていく。また、「認知症ケア論」では、認知症という疾患が多様で複合的な症状を呈するものであり、また、認知症のその人だけでなく、家族や地域の問題としての対応が求められるものでもあるため、時間をかけて理解する必要がある、大学の附属施設に「認知症研究所」を持つ利点を活かした特徴的な科目として配置する。

イ.『管理運営の実践』

マネジメント理論の修得科目として、「経営管理論」、「人的資源管理論」を配置し、病院や医療関連施設のマネジメントに関連する科目として、「医療管理総論」、「医療安全・臨床倫理」を配置した。保健・医療・福祉分野から地域を対象とした課題解決のための科目として、「持続可能社会と地域医療福祉経営」、「地域連携実践」、「ソーシャルビジネス」を配置し、地域社会と事業の創造について学び、公共性の高い事業である保健・医療・福祉による地域の活性化や社会貢献への期待に応えられるよう、知識基盤を築くことができる科目を配置した。ただし、これらの科目はソーシャルワークをより発展させていく科目であり、選択は学生の主体性に任せる。

ウ.『ソーシャルワーク演習』

知識と技術を具体化していくために、ケーススタディ（CS）など様々な学びの手法を提供する演習科目として、「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ」の演習科目を配置する。「ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）～Ⅶ（精神）」については、精神保健福祉士を目指す者を対象とした科目となる。ICF(国際生活機能分類)の視点やソーシャルワークの知識・技術を、アクティブ・ラーニングを用いた演習科目での学びを通じて、より実践力高め、実習科目と関連づけていくことを目指す。

エ.『ソーシャルワーク実習』

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」の実習科目を配置する。専門基礎科目や専門科目の「ソーシャルワークの理論と方法」、「管理運営の実践」、「ソーシャルワーク演習」の科目で学んできた知識・技術について、実際の保健・医療・福祉分野の現場で一定時間数の実習を行うことで、知識・技術の理解と獲得を目指し、また自分自身の現状及び課題に気づき、さらなる学びに向かう姿勢を涵養していく。配属実習前の実習指導、実習時における巡回訪問指導並びに帰校日指導、配属実習後の事後指導など、科目との連動を意識していく。

オ. 総合科目

科目での学びについて演習を通じて総合的に理解することを目的とし、「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修として配置する。「卒業研究」（4単位）は選択科目として配置する。演習科目では、知識の定着を図るため、きめ細かい学修を可能とする個別・少人数指導を重視した教育を行うため、少人数制のゼミナール形式とし、学生個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究することにより、その専門性を探究できるよう支援する。「基礎演習」は1年次に開講し、体験学習も含め、4年

間の学びに向け、調査・研究の手法の基礎やゼミナールの展開の理解を中心として進めていく。「専門演習Ⅰ」は3年次に、「専門演習Ⅱ」は4年次に開講し、ゼミナールを通じて、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を行い、実践力を涵養する。さらに、自らの研究や他の学生の研究について、ディスカッションを重ねながら展開し、学生個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究することにより、その専門性を探究できるよう支援していく。卒業研究とも関連させながら、4年間の学びの集大成とする。「卒業研究」を選択する学生には、それらの成果を論文にまとめるまでの指導を行い、大学卒業以降の高度専門教育への進学など将来の選択肢の拡大を支援するものとする。

〈カリキュラム・マップ ソーシャルワーク学科〉

区分		学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) : DP				
履修年次	学期	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
		人間を尊重する態度と深い倫理観と人間を総合的に存在として理解することができる能力	保険・医療・福祉・介護・療養・教育等に関わる専門的知識や技術についての能力	利用者やその家族の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施 (個別支援) する能力	地域生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施 (地域支援) する能力	個別支援から地域支援へ、地域支援から個別支援への連続した支援についての能力
前期	基礎教育科目	人間関係とコミュニケーションⅠ (選2) 倫理学 (選2) 心理学と心理的支援 (必2) 経営学入門 (選1) 統計学 (選2) 会計学入門 (選2) 健康とスポーツⅠ (必2) 健康とスポーツⅡ (必2)	人間関係とコミュニケーションⅠ (選2) 心理学と心理的支援 (必2) 健康とスポーツⅠ (必2)	人間関係とコミュニケーションⅠ (選2) 心理学と心理的支援 (必2)	健康とスポーツⅠ (必2) 健康とスポーツⅡ (必2)	経営学入門 (選1)
	専門基礎科目	医療福祉とマネジメント (必2) 社会福祉の原理と政策Ⅰ (必2) 障害者福祉 (選2)	医療福祉とマネジメント (必2) 社会福祉の原理と政策Ⅰ (必2) 障害者福祉 (選2)	医療福祉とマネジメント (必2) 障害者福祉 (選2)	医療福祉とマネジメント (必2) 障害者福祉 (選2)	
	高専教育科目	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ (必2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ (必2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ (必2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ (必2) 基礎演習 (必 通年2)	
		人間関係とコミュニケーションⅡ (選2) 北神史記 (必1) 発達心理学 (選2) ボランティア活動 (選1) 法学入門 (必1) 経済学入門 (選1) マーケティング入門 (選2) 情報科学 (選2) 簿記入門 (選1) 生活科学 (選1) 環境科学 (選1) 英語Ⅰ (基礎) (必2) 韓国語 (選2)	人間関係とコミュニケーションⅡ (選2) 発達心理学 (選2) ボランティア活動 (選1)	人間関係とコミュニケーションⅡ (選2) 発達心理学 (選2)		
後期	基礎教育科目	社会福祉の原理と政策Ⅱ (必2) 高専者福祉 (選2) ソーシャルワークの原理 (必2) 医学概論 (必2)	社会福祉の原理と政策Ⅱ (必2) 高専者福祉 (選2) ソーシャルワークの原理 (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (選2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの原理 (必2)	高専者福祉 (選2) ソーシャルワークの原理 (必2)	ソーシャルワークの原理 (必2)
	専門基礎科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (必2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (選2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (選2) 基礎演習 (必 通年2)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (選2) 基礎演習 (必 通年2)	
	専門基礎科目	人間の尊厳と自立 (選2) 教育学 (選2) 社会学入門 (選1) 政治学入門 (選1) 行政法 (選2) 社会学と社会システム (必2) 健康とスポーツⅡ (選2) 英語Ⅱ (実践基礎) (選2) 中国語 (選2)	人間の尊厳と自立 (選2) 教育学 (選2) 社会学と社会システム (必2) 健康とスポーツⅡ (選2)	人間の尊厳と自立 (選2) 教育学 (選2) 健康とスポーツⅡ (選2)	社会学と社会システム (必2) 健康とスポーツⅡ (選2)	社会学と社会システム (必2)
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (必2) 社会保険Ⅰ (必2) 社会福祉調査の基礎 (選2) リハビリテーション論 (選2) ICFの理解 (必1)	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (必2) 社会保険Ⅰ (必2) 社会福祉調査の基礎 (選2) リハビリテーション論 (選2) ICFの理解 (必1)	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (必2) 社会保険Ⅰ (必2) リハビリテーション論 (選2) ICFの理解 (必1)	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (必2) リハビリテーション論 (選2)	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (必2) リハビリテーション論 (選2)
2 年次 履修	前期	精神保健福祉の原理Ⅰ (選2) ソーシャルワーク演習Ⅰ (必1)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ (選2) 精神保健福祉の原理Ⅰ (選2)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ (選2) 精神保健福祉の原理Ⅰ (選2) ソーシャルワーク演習Ⅰ (必1)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (必2) 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ (選2) 精神保健福祉の原理Ⅰ (選2) ソーシャルワーク演習Ⅰ (必1)	
	高専教育科目	文化人類学 (選2) 文学 (選1) 英語Ⅲ (実践応用) (選2)				
	専門基礎科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (必2) 社会保険Ⅱ (必2) 児童・家庭福祉 (選2) 保健医療と福祉 (必2) 公衆衛生学 (選2)	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (必2) 社会保険Ⅱ (必2) 児童・家庭福祉 (選2) 保健医療と福祉 (必2) 公衆衛生学 (選2)	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (必2) 児童・家庭福祉 (選2) 保健医療と福祉 (必2) 公衆衛生学 (選2) カウンセリング (選2)	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (必2) 児童・家庭福祉 (選2) 保健医療と福祉 (必2) 公衆衛生学 (選2)	
	後期	精神保健福祉の原理Ⅱ (選2) 医療管理総論 (選2) ソーシャルワーク演習Ⅱ (必2) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (選1)	精神保健福祉の原理Ⅱ (選2) 医療管理総論 (選2) ソーシャルワーク演習Ⅱ (必2) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (選1)	精神保健福祉の原理Ⅱ (選2) 医療管理総論 (選2) ソーシャルワーク演習Ⅱ (必2) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (選1)	精神保健福祉の原理Ⅱ (選2) 医療管理総論 (選2) ソーシャルワーク演習Ⅱ (必2) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (選1)	精神保健福祉の原理Ⅱ (選2) 医療管理総論 (選2) ソーシャルワーク演習Ⅱ (必2) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (選1)

IV 教育課程進度表

〈教育課程進度表 看護学科（2022年度以降入学生カリキュラム）〉

科目区分		科目名	講義形態	単位数		配当年次・時間数								卒業要件
						1年		2年		3年		4年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	導入	スタートアップ講座	講義	1		15								1単位
	人間の理解	生命科学	講義	1		15								6単位以上
		心理学	講義	1		15								
		発達心理学	講義		1	15								
		倫理学	講義	1		15								
		生命倫理	講義		1	15								
		医療と哲学	講義		1	15								
		医療と論理学	講義	1		15								
		医療と宗教	講義		1	15								
	人間と社会	人間関係の科学	講義		1	15								6単位以上
		文化人類学	講義		1	15								
		医療と社会	講義		1	15								
		音楽	講義		1			15						
		法学	講義		1			15						
		教育学	講義		1			15						
		北海道史	講義		1	15								
		ボランティア論	講義		1			15						
	生活と情報	生活科学	講義		2		30							8単位以上
		自然科学	講義		1	15								
		環境科学	講義		1		15							
		生活と運動	演習		1	30								
		健康とスポーツ	演習		1		30							
		統計学	講義	1			15							
		情報科学Ⅰ	演習	1		30								
		情報科学Ⅱ	演習	1		30								
	語学	日本語表現	演習	1		30								5単位以上
		英語Ⅰ	演習	1		30								
		英語Ⅱ	演習	1			30							
英語Ⅲ		演習		1		30								
英語Ⅳ		演習		1				30						
中国語		演習		1		30								
韓国語		演習		1			30							
専門基礎科目	健康と疾病	総合医療論	講義	1		15							18単位	
		形態機能学Ⅰ（消化器・血液系）	講義	1		30								
		形態機能学Ⅱ（循環・代謝系）	講義	1		30								
		形態機能学Ⅲ（運動・神経系）	講義	1		30								
		形態機能学Ⅳ（人体解剖実習）	演習	1			30							
		臨床微生物学	講義	1		30								
		病態病理学	講義	1				30						
		臨床薬理学	講義	1					30					
		臨床栄養学	講義	1			30							
		治療法概論	講義	1				30						
		疾病論Ⅰ（循環器・呼吸器系）	講義	1				30						
		疾病論Ⅱ（消化器・血液系）	講義	1					30					
	疾病論Ⅲ（運動・神経系）	講義	1					30						
	疾病論Ⅳ（内分泌・腎泌尿器・感覚器系）	講義	1					30						
	疾病論Ⅴ（高齢者と精神）	講義	1				30							
	疾病論Ⅵ（女性と小児）	講義	1						30					
	感染症概論	講義	1			15								
	リハビリテーション概論	講義	1						15					
	社会と健康支援	公衆衛生学	講義	1		15					15			10単位以上
		保健医療統計	講義	1				15						
健康教育論		講義	1						15					
保健医療福祉行政論		講義	1			15								
チーム医療論		講義	1					15						
関係法規		講義	1				15							
社会福祉学		講義		1		15								
家族論		講義		1			15							
コミュニケーション論		講義		1		15								
心の健康科学Ⅰ		講義		1			15							
心の健康科学Ⅱ	講義		1				15							

科目区分		科目名	講義 形態	単位数		配当年次・時間数								卒業要件
				必修	選択	1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	看護の基本	初期実習	実習	1		45								15単位
		看護学概論	講義	2		30								
		看護倫理	講義	1						15				
		看護の基本技術論	講義	2		30								
		生活援助技術Ⅰ	演習	1		30								
		生活援助技術Ⅱ	演習	1			30							
		生活援助技術Ⅲ	演習	1			30							
		診療過程の援助技術	演習	1					30					
		看護ヘルスアセスメント論	演習	1				30						
		看護過程論	演習	1					30					
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1				45						
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2					90					
	対象の特色と看護実践	成人看護学概論	講義	2				30						12単位
		成人看護援助論Ⅰ	演習	1				30						
		成人看護援助論Ⅱ	演習	1					30					
		成人看護援助論Ⅲ	演習	1					30					
		成人看護学特論	演習	1				30						
		成人看護学実習Ⅰ	実習	4						180				
		成人看護学実習Ⅱ	実習	2							90			7単位
		老年看護学概論	講義	2			30							
		老年看護援助論Ⅰ	演習	1				30						
		老年看護援助論Ⅱ	演習	1					30					
		老年看護学実習Ⅰ	実習	1						45				
		老年看護学実習Ⅱ	実習	2							90			
	看護実習	小児看護学概論	講義	2						30				6単位
		小児看護援助論Ⅰ	講義	1							15			
		小児看護援助論Ⅱ	演習	1							30			
		小児看護学実習	実習	2								90		
		母性看護学概論	講義	2					30					6単位
		母性看護援助論Ⅰ	講義	1						15				
		母性看護援助論Ⅱ	演習	1							30			
		母性看護学実習	実習	2								90		
		精神看護学概論	講義	2					30					6単位
		精神看護援助論Ⅰ	講義	1						15				
		精神看護援助論Ⅱ	演習	1						30				
		精神看護学実習	実習	2							90			
看護実践	地域・在宅看護学概論	講義	2					30					8単位	
	地域生活支援論	演習	2						30					
	在宅看護援助論	演習	2							30				
	地域・在宅看護学実習	実習	2								90			
	看護の統合学習	医療安全	講義	1				15						11単位以上
		統合実習	実習	2								90		
看護研究		演習	1						30					
看護研究ゼミナールⅠ		演習	1							30				
看護研究ゼミナールⅡ		演習	1								30			
看護管理		講義	1						15					
感染管理		講義		1					15					
看護教育		講義		1								15		
災害看護		講義		1								15		
臨床看護技術演習		演習	1									30		
エンドオブライフケア	講義		1								15			
看護ゼミナール	演習	1									30			

〈教育課程進度表 リハビリテーション学科 理学療法学専攻（2022年度以降入学生カリキュラム）〉

科目区分		科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	講義	1		15								必修を含む12単位以上
		発達心理学	講義		1	15								
		生物学	講義		2	30								
		物理学	講義		2	30								
		生活科学	講義		1	15								
		環境科学	講義		1	15								
		生活と運動	講義	1		15								
		健康とスポーツ	演習		1	30								
		統計学	講義		1	15								
		情報科学	講義	1		15								
		情報科学演習	演習		1	30								
		人間発達学	講義	2				30						
	人間と生活及び社会の理解	倫理学	講義	1		15								必修を含む7単位以上
		生命倫理	講義	1		15								
		医療と哲学	講義		1	15								
		医療と論理学	講義		1	15								
		医療と宗教	講義		1	15								
		人間関係の科学	講義	1		15								
		文化人類学	講義		1	15								
		医療と社会	講義	1		15								
		音楽	講義		1			15						
		法学	講義		1	15								
		教育学	講義		1	15								
		北海道史	講義		1	15								
		ボランティア論	講義		1			15						
	語学	日本語表現	演習	1		30								必修を含む5単位以上
		英語Ⅰ	演習	1		30								
		英語Ⅱ	演習	1		30								
		英語Ⅲ	演習		1			30						
		英語Ⅳ	演習		1					30				
		中国語	演習		1	30								
		韓国語	演習		1			30						
専門基礎科目	人々の発達と機能及び	解剖学Ⅰ	講義	2		30								17単位
		解剖学Ⅱ	講義	2		30								
		解剖学演習	演習	2		60								
		体表解剖学	演習	1		30								
		生理学Ⅰ	講義	2		30								
		生理学Ⅱ	講義	2		30								
		生理学演習	演習	1				30						
		運動学Ⅰ	講義	2		30								
		運動学Ⅱ	講義	2				30						
		運動学演習	演習	1					30					
	回復過程の促進	病理学	講義	2		30								必修を含む17単位以上
		栄養学	講義	1		15								
		心の健康科学Ⅰ	講義		1			15						
		心の健康科学Ⅱ	講義		1				15					
		教育心理学	講義		1			15						
		内科学	講義	2					30					
		整形外科	講義	2				30						
		神経内科学	講義	2				30						
		精神医学	講義	2					30					
		小児科学	講義	1					15					
		障害学特論	講義	1					30					
		応急処置法	演習	1						30				
		薬理学	講義	1		30								
		予防医学	講義	1		15								

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	リハビリテーション論	講義	2		30								5単位を含む
	チーム医療論	講義	1						15				
	保健医療論	講義		1			15						
	社会福祉学	講義		1	15								
	健康政策論	講義	1								15		
専門教育科目	基礎理学療法学	理学療法概論	講義	1	30								6単位
		理学療法概論演習	演習	1		30							
		理学療法セミナーⅠ	演習	1		30							
		理学療法セミナーⅡ	演習	1			30						
		理学療法セミナーⅢ	演習	1				30					
		理学療法総合演習	演習	1					30			30	7単位以上
	理学療法評価学	理学療法評価学(運動器系)	講義	1			30						
		理学療法評価学演習(運動器系)	演習	2			60						
		理学療法評価学(神経系)	講義	1				30					
		理学療法評価学演習(神経系)	演習	2				60					
		臨床判断学(基礎編)	演習	1				30					
		臨床判断学(応用編)	演習		1					30			必修16単位と、○を含む共通・連携科目の中から3単位以上
	理学療法	運動療法学	講義	1			30						
		運動療法学演習	演習	1				30					
		運動器障害理学療法学	講義	1					30				
		運動器障害理学療法学演習	演習	1					30				
		神経障害理学療法学	講義	1					30				
		神経障害理学療法学演習	演習	1					30				
		呼吸・循環器障害理学療法学	講義	1						30			
		代謝・免疫系障害理学療法学	講義	1					30				
		発達障害理学療法学	講義	1						30			
		高齢期障害理学療法学	講義	1						30			
		物理療法学	講義	1					30				
		物理療法学演習	演習	1					30				
		義肢装具学	講義	1					30				
		義肢装具学演習	演習	1						30			
	理学療法	日常生活活動基礎学	講義	1					30				
		神経筋促通治療学	演習	1						30			
		○高次脳機能障害学	講義		○1					30			
		○徒手関節治療学	演習		○1					30			
	療域学	○スポーツ理学療法学	講義		○1					30			
		地域理学療法学	講義	1					30				2単位
		生活環境学	講義	1						15			
	臨床実習法	臨床実習Ⅰ(理学療法)	実習	2				90					20単位
		臨床実習Ⅱ(理学療法)	実習	4						180			
		臨床実習Ⅲ(理学療法)	実習	7							315		
		臨床実習Ⅳ(理学療法)	実習	7							315		
	共通・連携科目	リハビリテーション管理学	講義	2								30	9単位以上
		呼吸リハビリテーション特論	講義	1						15			
		軟部組織治療学	演習		1					30			
		ウィメンズヘルスケア論	講義		1				15				
		災害リハビリテーション	講義		1				15				
		地域リハビリテーション学	講義	1			30						
		地域リハビリテーション学演習	演習	1				30					
		研究法	講義	1					30				
		卒業研究Ⅰ	演習	2					30	30			
		卒業研究Ⅱ	演習	1							30		

〈教育課程進度表 リハビリテーション学科 作業療法学専攻(2022年度以降入学生カリキュラム)〉

科目区分		科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基 礎 教 育 科 目	科学的思考の基礎	心理学	講義	1		15								必修を含む12単位以上
		発達心理学	講義		1	15								
		生物学	講義		2	30								
		物理学	講義		2	30								
		生活科学	講義		1	15								
		環境科学	講義		1	15								
		生活と運動	講義	1		15								
		健康とスポーツ	演習		1	30								
		統計学	講義		1	15								
		情報科学	講義	1		15								
		情報科学演習	演習		1	30								
		人間発達学	講義	2				30						
	人間と生活及び社会の理解	倫理学	講義	1		15								必修を含む7単位以上
		生命倫理	講義	1		15								
		医療と哲学	講義		1	15								
		医療と論理学	講義		1	15								
		医療と宗教	講義		1	15								
		人間関係の科学	講義	1		15								
		文化人類学	講義		1	15								
		医療と社会	講義	1		15								
		音楽	講義		1			15						
		法学	講義		1	15								
		教育学	講義		1	15								
		北海道史	講義		1	15								
		ボランティア論	講義		1			15						
	語学	日本語表現	演習	1		30								必修を含む5単位以上
		英語Ⅰ	演習	1		30								
		英語Ⅱ	演習	1		30								
		英語Ⅲ	演習		1			30						
		英語Ⅳ	演習		1					30				
		中国語	演習		1	30								
		韓国語	演習		1			30						
専 門 基 礎 教 育 科 目	心身の発達 人体の構造と機能及び 回復過程の促進	解剖学Ⅰ	講義	2		30								17単位
		解剖学Ⅱ	講義	2		30								
		解剖学演習	演習	2		60								
		体表解剖学	演習	1		30								
		生理学Ⅰ	講義	2		30								
		生理学Ⅱ	講義	2		30								
		生理学演習	演習	1				30						
		運動学Ⅰ	講義	2		30								
		運動学Ⅱ	講義	2				30						
		運動学演習	演習	1				30						
	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	講義	2		30								必修を含む17単位以上
		栄養学	講義	1		15								
		心の健康科学Ⅰ	講義		1			15						
		心の健康科学Ⅱ	講義		1			15						
		教育心理学	講義		1			15						
		内科学	講義	2				30						
		整形外科	講義	2				30						
		神経内科学	講義	2				30						
		精神医学	講義	2				30						
		小児科学	講義	1				15						
		障害学特論	講義	1				30						
		応急処置法	演習	1						30				
		薬理学	講義	1		30								
		予防医学	講義	1		15								

科目区分		科目名	講義 形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎教育科目	シと保 リ健 ヨハ医 ビ療 ン理 の療 理福 念祉	リハビリテーション論	講義	2		30								5単位以上 必修を含む
		チーム医療論	講義	1						15				
		保健医療論	講義		1			15						
		社会福祉学	講義		1	15								
		健康政策論	講義	1								15		
専門 教育 科目	基礎 作 業 療 法 学	作業療法概論	講義	1		30								6単位
		基礎作業学演習	演習	1			30							
		作業療法セミナーⅠ	演習	1			30							
		作業療法セミナーⅡ	演習	1				30						
		作業療法セミナーⅢ	演習	1						30				
		作業療法総合演習	演習	1								30		
	作 業 療 法 評 価 学	作業療法評価学	講義	1				30						5単位
		作業療法評価学演習(基礎評価)	演習	1				30						
		作業療法評価学演習(骨・関節系)	演習	1				30						
		作業療法評価学演習(神経・筋力系)	演習	1					30					
		作業療法評価学演習(中枢神経系)	演習	1				30						
	作 業 療 法 学	身体障害作業治療学(中枢神経障害系)	講義	2						30	30			必修17単位と、○を含む共通・連携科目の中から2単位以上
		身体障害作業治療学(運動器・内部障害系)	講義	2						30	30			
		精神障害作業治療学	講義	2						30	30			
		発達障害作業治療学	講義	2						30	30			
		高齢期障害作業治療学	講義	2						30	30			
		高次脳機能障害作業治療学	講義	1						30				
		義肢装具作業療法学	講義	1							30			
		義肢装具作業療法学演習	演習	1							30			
		日常生活適応学(ADL)	講義	2				60						
		日常生活適応学(動作分析)	演習	1							30			
		就労支援作業療法学	講義	1						30				
		作業療法治療学特論(評価と治療の原理・原則)	講義		○1					15				
		作業療法治療学特論(治療理論)	講義		○1					15				
		作業療法治療学特論(シーティング)	講義		○1					15				
		作業療法治療学特論(ハンドセラピー)	講義		○1					15				
	地 域 作 業 療 法 学	地域作業療法学	講義	1						30				2単位
		福祉住環境論	講義	1				30						
	臨 床 実 習 法	臨床実習Ⅰ(作業療法)	実習	2				90						24単位
		臨床実習Ⅱ(作業療法)	実習	6						270				
		臨床実習Ⅲ(作業療法)	実習	8							360			
		臨床実習Ⅳ(作業療法)	実習	8							360			
	共 通 ・ 連 携 科 目	リハビリテーション管理学	講義	2								30		9単位以上
		呼吸リハビリテーション特論	講義	1							15			
		軟部組織治療学	演習		1						30			
		ウィメンズヘルスケア論	講義		1					15				
		災害リハビリテーション	講義		1					15				
		地域リハビリテーション学	講義	1			30							
		地域リハビリテーション学演習	演習	1				30						
		研究法	講義	1						30				
		卒業研究Ⅰ	演習	2						30	30			
		卒業研究Ⅱ	演習	1								30		

〈教育課程進度表 診療放射線学科（2022年度以降入学生カリキュラム）〉

科目区分		授業科目の名称	講義形態	単位数		配当年次・時間数								卒業要件
						1年		2年		3年		4年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	人間と生活	生命科学	講義	1		15								必修3単位、 選択科目 10単位から 4単位以上
		心理学	講義	1		15								
		倫理学	講義		1	15								
		生命倫理	講義		1		15							
		医療と宗教	講義		1		15							
		人間関係の科学	講義		1	15								
		文化人類学	講義		1		15							
		医療と社会	講義		1		15							
		法学	講義		1		15							
		教育学	講義		1		15							
		北海道史	講義		1	15								
		ボランティア論	講義		1			15						
		医療コミュニケーション学	講義	1			15							
	科学的思考の基礎	物理学	講義	2		30								必修8単位、 選択科目4 単位から2 単位以上
		化学	講義	1		15								
		生物学	講義	1		15								
		生活と運動	演習		1	30								
		健康とスポーツ	演習		1			30						
		数学Ⅰ（指数・対数・三角関数）	講義	2		30								
		数学Ⅱ（微分・積分・微分方程式）	講義	1			15							
		数学Ⅲ（統計学）	講義		1		15							
		情報科学	講義	1		15								
	語学	情報科学演習	演習		1	30								必修1単位、 選択科目4 単位から2 単位以上
		日本語表現	演習		1	30								
		英語Ⅰ	演習	1		30								
		英語Ⅱ	演習		1		30							
		韓国語	演習		1			30						
	中国語	演習		1		30								
専門基礎教育科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	医学概論	講義	1		15								必修12単位、 選択科目5単位から 3単位以上
		系統解剖学	講義	2		30								
		系統解剖学演習	演習		1		30							
		臨床解剖学	講義	2			30							
		臨床解剖学演習	演習		1			30						
		生理学	講義		1			15						
		病態生理学	講義	1					15					
		病理学	講義	1				15						
		生化学	講義	1				15						
		臨床薬理学Ⅰ	講義	1						15				
		臨床薬理学Ⅱ	講義		1					15				
		衛生学	講義	1			15							
		公衆衛生学	講義	1								15		
	保健医療福祉における理工学的基礎並びに放射線の科学及び技術	臨床医学概論	講義	1					15					必修16単位、 選択科目4単位から 3単位以上
		臨床医学演習	演習		1					30				
		放射線科学概論	講義	2		30								
		放射線生物学	講義	2			30							
		放射線生物学演習	演習		1			30						
		放射線物理学	講義	2			30							
		放射線物理学演習	演習		1			30						
		放射線・物理学実験	実習	1			30							
		放射化学	講義	2			30							
		放射化学演習	演習		1			30						
		医用工学	講義	2			30							
		医用工学演習	演習		1							30		
		放射線計測学	講義	2				30						
	放射線計測学演習	演習	1								30			
	診療画像検査学概論	講義	2			30								
	医療専門職の機能と役割	基礎看護学	講義	1				15						必修3単位、 選択科目3 単位から2 単位以上
		チーム医療論	講義	1					15					
		医療経済学	講義		1			15						
心の健康科学Ⅰ		講義		1			15							
放射線カウンセリング学		講義		1				15						
医療職としての責任と役割		講義	1								15			

科目区分		授業科目の名称	講義形態	単位数		配当年次・時間数								卒業要件
						1年		2年		3年		4年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	診療画像技術学・画像診断学	診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）	講義	2				30						必修科目14単位※
		診療画像技術学Ⅱ（造影検査）	講義	2					30					
		X線CT検査学	講義	1				15						
		MRI検査学	講義	2					30					
		超音波検査学	講義	2						30				
		診療画像技術学演習※	演習		1							30		
		放射線技術学実習Ⅰ	実習	1			30							
		放射線技術学実習Ⅱ	実習	1				30						
		放射線技術学実習Ⅲ	実習	1						30				
		診療画像機器学	講義	2			30							
		診療画像機器学演習※	演習		1							30		
		画像解剖学Ⅰ（X線画像）	講義	2					30					必修科目8単位※
		画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波）	講義	2						30				
		画像解剖学Ⅲ（演習）※	演習		1						30			
		実践臨床画像学	講義	2						30				
		画像診断学	講義	2							30			
		画像診断学演習※	演習		1								30	
	核医学検査技術学	放射性医薬品学	講義	1					15					必修科目6単位※
		核医学検査技術学概論	講義	1						15				
		核医学検査機器学	講義	2						30				
		核医学検査技術学	講義	2							30			
		核医学検査技術学演習※	演習		1								30	
	放射線治療技術学	放射線治療技術学概論	講義	2					30					必修科目7単位※
		放射線治療技術学	講義	2						30				
		放射線治療計測学	講義	1								15		
		放射線治療機器学	講義	2							30			
		放射線治療技術学演習※	演習		1								30	
	医療画像情報学	医療画像処理学	講義	1					15					必修科目6単位※
		医療画像工学	講義	2						30				
		医療画像情報学	講義	2							30			
		医療画像情報学演習※	演習		1								30	
		医療情報管理学	講義	1								15		
	放射線安全管理学	放射線安全管理学	講義	2							30			必修科目4単位
		医療機器安全管理学	講義	1							15			
		関係法規	講義	1								15		
	医療安全管理学	医療安全管理学	講義	1							15			必修科目2単位
		応急処置法（演習）	演習	1								30		
		臨床実習	早期臨床実習	実習	1				45					
	臨床実習Ⅰ		実習	5						225				
	臨床実習Ⅱ		実習	6								270		
	総合科目	放射線技術学特別講義※	講義		1							30		必修科目2単位※
		総合演習Ⅰ（専門基礎領域）	演習	1									30	
		総合演習Ⅱ（臨床領域）	演習	1									30	
卒業研究	診療放射線学コロキウム	演習	1							30			必修科目1単位	
	卒業研究※	演習		2							30	30		

※診療画像技術学、画像診断学、核医学検査技術学、放射線治療技術学 医療画像情報学、総合科目、卒業研究の全ての選択科目の中から7単位以上を取得

〈教育課程進度表 臨床検査学科（2022年度以降入学生カリキュラム）〉

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	人間と生活	生命科学	講義	1		15							必修を含む 9単位以上
		心理学	講義	1	15								
		コミュニケーション学	講義	1	15								
		倫理学	講義		1	15							
		生命倫理	講義		1	15							
		医療と哲学	講義		1	15							
		人間関係の科学	講義		1	15							
		文化人類学	講義		1	15							
		医療と社会	講義		1	15							
		法学	講義		1	15							
		教育学	講義		1	15							
		北海道史	講義		1	15							
		ボランティア論	講義		1		15						
	科学的思考の基礎	物理学	講義		1	15							必修を含む 6単位以上
		化学	講義	1		15							
		生物学	講義	1		15							
		生活と運動	演習		1	30							
		健康とスポーツ	演習		1	30							
		数学	講義	1		15							
	語学	数学（統計学）	講義	1		15							必修を含む 5単位以上
		日本語表現	演習		1	30							
		英語Ⅰ	演習	1		30							
		英語Ⅱ	演習	1		30							
		英語Ⅲ	演習	1			30						
		中国語	演習		1	30							
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	韓国語	演習		1		30						必修を含む 5単位以上
		解剖学	講義	1		15							
		解剖学演習	演習	1		30							
		組織細胞学	講義	1		15							
		組織細胞学実習	実習	1		45							
		生理学Ⅰ	講義	1		15							
		生理学Ⅱ	講義	1		15							
		生化学Ⅰ	講義	1		15							
	医学その検査の基礎と関連	生化学Ⅱ	講義	1		15							8単位
		病理学	講義	1		15							
		免疫学	講義	1		15							
		臨床栄養概論	講義	1		15							
		臨床薬理概論	講義	1			15						
		臨床病棟検査概論	講義	1				15					
	保健医療福祉と医学検査	臨床検査入門	講義	1		15				15			6単位
		保健医療福祉概論	講義	1		15							
		公衆衛生学	講義	1			15						
		救命救急検査概論	講義	1					15				
		地域医療連携学	講義	1					15				
		チーム医療と臨床検査	講義	1					15				
専門教育科目	臨床病態学	情報科学	講義	1		15							5単位
		情報科学演習	演習	1		30							
		医用工学	講義	1		15							
		医用工学実習	実習	1		45							
		臨床検査医学総論Ⅰ	講義	1		15							4単位
		臨床検査医学総論Ⅱ	講義	1			15						
		症例細胞診検査学	講義	1					15				
		症例血液・染色体検査学	講義	1					15				
		症例微生物・感染制御学	講義	1					15				
		症例臨床化学・免疫検査学	講義	1					15				
		症例輸血検査学	講義	1					15				
		症例超音波検査学	講義	1					15				
		臨床検査総論演習	演習	4								120	

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	形態検査学	病理検査学	講義	1			15						10単位
		細胞検査学	講義	1					15				
		病理検査学実習	実習	1			45						
		細胞検査学実習	実習	1					45				
		臨床血液学Ⅰ	講義	1			15						
		臨床血液学Ⅱ	講義	1				15					
		臨床血液学実習Ⅰ	実習	1				45					
		臨床血液学実習Ⅱ	実習	1					45				
		病理検査学総合演習	演習	1						30			
		血液検査学総合演習	演習	1							30		
	生物化学分析検査学	一般検査学Ⅰ	講義	1		15							12単位
		一般検査学Ⅱ	講義	1			15						
		一般検査学実習	実習	1			45						
		臨床化学Ⅰ	講義	1		15							
		臨床化学Ⅱ	講義	2			30						
		臨床化学実習Ⅰ	実習	1			45						
		臨床化学実習Ⅱ	実習	1				45					
		遺伝子・染色体検査学	講義	1					15				
		遺伝子検査学実習	実習	1						45			
		一般検査学総合演習	演習	1						30			
		分析検査学総合演習	演習	1						30			
	病因・生体防御検査学	医動物学	講義	1				15					15単位
		微生物学	講義	1			15						
		臨床微生物学Ⅰ	講義	1				15					
		臨床微生物学Ⅱ	講義	1					15				
		臨床微生物学実習Ⅰ	実習	1				45					
		臨床微生物学実習Ⅱ	実習	2					90				
		臨床免疫学	講義	1			15						
		臨床免疫学実習	実習	1				45					
		輸血・移植検査学Ⅰ	講義	1				15					
		輸血・移植検査学Ⅱ	講義	1					15				
		輸血検査学実習Ⅰ	実習	1					45				
		輸血検査学実習Ⅱ	実習	1						45			
		微生物検査学総合演習	演習	1							30		
		免疫検査学総合演習	演習	1							30		
	生理機能検査学	臨床生理学Ⅰ	講義	2			30						11単位
		臨床生理学Ⅱ	講義	1			15						
		臨床生理学Ⅲ	講義	1				15					
		臨床生理学Ⅳ	講義	1					15				
		認知症検査概論	講義	1						15			
		臨床生理学実習Ⅰ	実習	2				90					
		臨床生理学実習Ⅱ	実習	2					90				
		生理機能検査学総合演習	演習	1							30		
	検査総合管理学	検査機器総論演習	演習	1		30							7単位
		専門検査技師総論	講義	1						15			
		臨床検査管理学Ⅰ	講義	1						15			
		臨床検査管理学Ⅱ	演習	1						30			
		臨床検査マネジメント論	講義	1						15			
		関係法規	講義	1					15				
		臨地実習前総合演習	実習	1							45		
	医療安全管理学	感染管理学	講義	1			15						3単位
		医療安全管理学	講義	1			15						
		医療安全管理学実習	実習	1			45						
	実臨習地	臨地実習	実習	11							495		11単位
	研卒業	卒業研究	演習	4							60	60	4単位

〈教育課程進度表 臨床工学科（2023年度入学生カリキュラム）〉

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	人間と生活及び社会の理解	心理学	講義	1	15								必修を含む 7単位以上
		生命科学	講義	1		15							
		コミュニケーション学	講義	1		15							
		倫理学	講義		15								
		生命倫理	講義		15								
		医療と哲学	講義		15								
		人間関係の科学	講義		15								
		文化人類学	講義		15								
		医療と社会	講義		15								
		法学	講義		15								
		教育学	講義		15								
		北海道史	講義		15								
		ボランティア論	講義				15						
	科学的思考の基盤	物理学（基礎）	講義	1	15								必修を含む 6単位以上
		物理学（応用）	講義		15								
		化学	講義		15								
		生物学	講義		15								
		生活と運動	演習	1	30								
		健康とスポーツ	演習	1	30								
		数学	講義	1	15								
		数学（統計学）	講義	1	15								
	語学	日本語表現	演習	1	30								必修を含む 5単位以上
		英語Ⅰ	演習	1	30								
		英語Ⅱ	演習	1		30							
		英語Ⅲ	演習	1				30					
		医療英語	演習	1			30						
		中国語	演習		30								
		韓国語	演習		30								
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30								7単位
		解剖生理学Ⅱ	講義	2	30								
		解剖生理学演習	演習	1		30							
		分子医化学	講義	2		30							
	臨床工学に必要な医学的基礎	医療総論	講義	1	15								13単位
		臨床工学総論	講義	1		15							
		病理学	講義	2			30						
		分子病態生理学	講義	1				15					
		生体防御学	講義	1		15							
		微生物学	講義	2			30						
		臨床薬理概論	講義	1				15					
		公衆衛生学	講義	2			30						
		医療コミュニケーション論	講義	1						15			
		チーム医療	講義	1							15		
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	講義	1	15								必修を含む 22単位以上
		機械工学Ⅰ	講義	2			30						
		機械工学Ⅱ	講義		2			30					
		電気工学Ⅰ	講義	2	30								
		電気工学Ⅱ	講義	2		30							
		電子工学Ⅰ	講義	2			30						
		電子工学Ⅱ	講義		2			30					
		材料工学	講義	2			30						
		物性工学	講義		2	30							
		計測工学	講義	2		30							
		電気工学実習	実習	1		45							
		電子工学実習	実習	1			45						
		基礎工学演習Ⅰ	演習	1	30								
		基礎工学演習Ⅱ	演習	1				30					
		基礎工学演習Ⅲ	演習	2							60		
		臨床工学応用演習	演習	1							30		
	臨床工学に必要な医療情報学	情報処理Ⅰ	講義	2	30								必修を含む 8単位以上
		情報処理Ⅱ	講義		2	30							
		システム工学	講義	2			30						
		医療情報学	講義		2	30							
		プロジェクトスキルⅠ	講義	1				15					
		プロジェクトスキルⅡ	講義	1					15				

科目区分		科目名	講義 形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 教育 科目	医用生体工学	医用工学概論	講義	2			30							8単位
		医用機器学概論Ⅰ	講義	2			30							
		医用機器学概論Ⅱ	講義	2					30					
		医用工学演習Ⅰ	演習	1				30						
		医用工学演習Ⅱ	演習	1									30	
	医用機器学及び臨床支援技術	医用治療機器学	講義	2				30						必修を含む 19単位以上
		医用治療機器学演習	演習	1									30	
		医用治療機器学実習	実習	1						45				
		生体計測装置学	講義	4				60						
		生体計測装置学演習	演習	1									30	
		生体計測装置学実習	実習	1						45				
		循環器治療機器学Ⅰ	講義	1					15					
		循環器治療機器学Ⅱ	講義	2							30			
		消化器治療機器学	講義	1					15					
		臨床機器学各論Ⅰ	講義		1						15			
		臨床機器学各論Ⅱ	講義		1						15			
		臨床機器学各論Ⅲ	講義		1						15			
		臨床機器学各論Ⅳ	講義		1						15			
		臨床支援技術学基礎演習	演習	1		30								
		臨床支援技術学	講義	2						30				
		臨床支援技術学実習	実習	1								30		
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	講義	4				60						必修を含む 18単位以上
		生体機能代行装置学Ⅱ	講義	2							30			
		生体機能代行装置学Ⅲ	講義	2								30		
		血液透析療法装置学Ⅰ	講義	2						30				
		血液透析療法装置学Ⅱ	講義	2								30		
		血液浄化療法装置学	講義		1						15			
		呼吸療法装置学	講義		1						15			
		体外循環療法装置学	講義		1						15			
		生体機能代行装置学演習Ⅰ	演習	1					30					
		生体機能代行装置学演習Ⅱ	演習	1						30				
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	実習	1					45					
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	実習	2							90			
	医療安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	講義	2				30						7単位
		医用機器安全管理学Ⅱ	講義	2						30				
		医用機器安全管理学実習	実習	1							45			
		医療安全管理学	講義	2								30		
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	講義	1					15					7単位
		臨床医学総論Ⅱ	講義	1						15				
		臨床医学総論Ⅲ	講義	1						15				
		臨床医学総論Ⅳ	講義	1							15			
		臨床医学総論Ⅴ	講義	1							15			
		臨床医学演習	演習	2								60		
	実習床	臨床実習	実習	7								210		7単位
	研究業	卒業研究	演習	4								120		4単位

<教育課程進度表 介護福祉マネジメント学科(2022年度以降入学生カリキュラム)>

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30								必修を含む 8単位以上
		人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2		30							
		人間の尊厳と自立	講義	2			30						
		倫理学	講義	2	30								
		文化人類学	講義	2				30					
		教育学	講義	2			30						
		文学	講義	1				15					
		北海道史	講義	1		15							
		心理学と心理的支援	講義	2	30								
		発達心理学	講義	2		30							
	人間と社会	ボランティア活動		1		15							必修を含む 10単位以上
		法学入門	講義	1		15							
		政治学入門	講義	1			15						
		経済学入門	講義	1		15							
		経営学入門	講義	1		15							
		行政法	講義	2			30						
		マーケティング入門	講義	2		30							
		統計学	講義	2	30								
		情報科学	講義	2		30							
		会計学入門	講義	2		30							
	健康科学	簿記入門	講義	2		30							必修を含む 2単位以上
		社会学と社会システム	講義	2			30						
		家族社会学	講義	2				30					
		生活科学	講義	1		15							
	語学	環境科学	講義	1		15							必修を含む 4単位以上
		健康とスポーツⅠ	演習	2		30							
		健康とスポーツⅡ	演習	2			30						
		日本語表現	演習	2		30							
		英語Ⅰ(基礎)	演習	2		30							
		英語Ⅱ(実践基礎)	演習	2			30						
		英語Ⅲ(実践応用)	演習	2				30					
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	中国語	演習	2			30						必修を含む 40単位以上
		韓国語	演習	2		30							
		医療福祉とマネジメント	講義	2		30							
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2		30							
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2		30							
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2			30						
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義	2				30					
		薬理学	講義	1			15						
		社会の理解Ⅰ	講義	2			30						
		社会の理解Ⅱ	講義	2				30					
		社会保障Ⅰ	講義	2			30						
		社会保障Ⅱ	講義	2				30					
		保健医療と福祉	講義	2				30					
		医学概論	講義	2		30							
		国際医療福祉論	講義	2					30				
		公衆衛生学	講義	2				30					
		認知症の理解Ⅰ	講義	2				30					
		認知症の理解Ⅱ	講義	2					30				
		障害の理解Ⅰ	講義	2					30				
		障害の理解Ⅱ	講義	2						30			
		コミュニケーション技術Ⅰ	演習	1		30							
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	1			30						
		医療ソーシャルワーク論	講義	2					30				
		ケアマネジメント論	講義	2						30			
		リーダー論	講義	2							30		
		リハビリテーション論	講義	2			30						
		ICFの理解	講義	1			15						
		福祉用具と福祉機器	演習	1							15		
専門基礎教育科目	経営の基礎	医療のしくみ	講義	2	30								必修を含む 40単位以上
		地域医療連携とチーム医療	講義	2					30				
		地域活性化と地域医療	講義	2					30				
		統計解析	講義	2			30						
専門基礎教育科目	経営の基礎	会計学Ⅰ	講義	2			30						必修を含む 40単位以上

科目区分		科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	経営の基礎	簿記	講義		2			30						
		経営戦略	演習		1				30					
		経営分析論	講義		2					30				
		福祉サービスの組織と経営	講義	2							30			
		介護施設経営	講義	2								30		
	マネジメント理論	医療経済学	講義		2					30				必修を含む 60単位以上
		医療流通システム論	講義		2					30				
		医療マーケティング	講義		2						30			
		原価計算	講義		2				30					
		会計学Ⅱ	講義		2				30					
		監査論	講義		2					30				
		医療経営戦略	演習		1							30		
		組織心理学	講義		2							30		
		経営管理論	講義		2								30	
		人的資源管理論	講義		2							30		
		企業法務	講義		2								30	
	医療管理と実務	医療管理総論	講義		2				30					
		医療管理各論Ⅰ	講義		2					30				
		医療管理各論Ⅱ	講義		2							30		
		医療管理各論Ⅲ	演習		2								60	
		医療関連法規	講義		2							30		
		医療安全・臨床倫理	講義		2						30			
		秘書学	講義		2					30				
		文書作成技術	講義		2						30			
		診療報酬請求事務Ⅰ	講義		2					30				
		診療報酬請求事務Ⅱ	講義		2						30			
	介護福祉社	発達と老化の理解Ⅰ	講義		2					30				
		発達と老化の理解Ⅱ	講義		2						30			
		こころとからだのしくみⅠ	講義		4			60						
		こころとからだのしくみⅡ	講義		4				60					
		介護の基本Ⅰ	講義		4		60							
		介護の基本Ⅱ	講義		4				60					
		介護の基本Ⅲ	講義		4						60			
		介護過程Ⅰ	演習		2		60							
		介護過程Ⅱ	演習		2			60						
		介護過程Ⅲ	演習		1					30				
		生活支援技術ⅠA	演習		2	60								
		生活支援技術ⅠB	演習		2		60							
		生活支援技術ⅡA	講義		4			60						
		生活支援技術ⅡB	講義		2				30					
		生活支援技術ⅢA	講義		2					30				
		生活支援技術ⅢB	講義		4						60			
		介護総合演習ⅠA	演習		1		30							
		介護総合演習ⅠB	演習		1						30			
		介護総合演習ⅡA	演習		1			30						
		介護総合演習ⅡB	演習		1				30					
	地域マネジメント	介護実習Ⅰ型基礎	実習		1			45						
		介護実習Ⅰ型応用	実習		1							45		
		介護実習Ⅱ型基礎	実習		3				135					
		介護実習Ⅱ型応用	実習		5					225				
		医療的ケアⅠ	講義		4							60		
		医療的ケアⅡ	演習		2								60	
		医療的ケアⅢ	演習		1								30	
		認知症ケア論	講義		2							30		
		介護報酬請求事務	演習		2							30		
		事業構想論	講義		2						30			
	総合科目	持続可能社会と地域医療福祉経営	講義	2									30	
		サービス産業論	講義		2							30		
		地域連携実践	演習		2					60				
		ソーシャル・ビジネス	講義		2								30	
		基礎演習	演習	2		30	30							
専門教育科目	総合科目	専門演習Ⅰ	演習	2						30	30			
		専門演習Ⅱ	演習	2								30	30	
		卒業研究	演習		4							30	30	

〈教育課程進度表 ソーシャルワーク学科（2022年度以降入学生カリキュラム）〉

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30								必修を含む 10単位以上
		人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2		30							
		人間の尊厳と自立	講義	2			30						
		倫理学	講義	2	30								
		文化人類学	講義	2				30					
		教育学	講義	2			30						
		文学	講義	1				15					
		北海道史	講義	1		15							
		心理学と心理的支援	講義	2	30								
		発達心理学	講義	2		30							
	人間と社会	ボランティア活動	講義	1		15							必修を含む 8単位以上
		法学入門	講義	1		15							
		政治学入門	講義	1			15						
		経済学入門	講義	1	15								
		経営学入門	講義	1									
		行政法	講義	2			30						
		マーケティング入門	講義	2		30							
		統計学	講義	2	30								
		情報科学	講義	2		30							
		会計学入門	講義	2	30								
	健康科学	簿記入門	講義	2		30							必修を含む 2単位以上
		社会学と社会システム	講義	2			30						
		家族社会学	講義	2				30					
		生活科学	講義	1		15							
	語学	環境科学	講義	1		15							必修を含む 4単位以上
		健康とスポーツⅠ	演習	2	30								
		健康とスポーツⅡ	演習	2			30						
		日本語表現	演習	2		30							
		英語Ⅰ（基礎）	演習	2		30							
		英語Ⅱ（実践基礎）	演習	2			30						
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	英語Ⅲ（実践応用）	演習	2				30					必修を含む 46単位以上
		中国語	演習	2			30						
		韓国語	演習	2		30							
		医療福祉とマネジメント	講義	2	30								
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2	30								
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2		30							
		ソーシャルワークの原理	講義	2		30							
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2			30						
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義	2				30					
		社会保障Ⅰ	講義	2			30						
		社会保障Ⅱ	講義	2				30					
		貧困に対する支援	講義	2					30				
		高齢者福祉	講義	2		30							
		障害者福祉	講義	2	30								
		児童・家庭福祉	講義	2				30					
		権利擁護を支える法制度	講義	2					30				
		刑事司法と福祉	講義	2						30			
		保健医療と福祉	講義	2				30					
		医学概論	講義	2		30							
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2	30								
		社会福祉調査の基礎	講義	2			30						
		国際医療福祉論	講義	2					30				
		公衆衛生学	講義	2				30					
		カウンセリング	講義	2				30					
		医療ソーシャルワーク論	講義	2					30				
		ケアマネジメント論	講義	2						30			
		リーダー論	講義	2							30		
		リハビリテーション論	講義	2			30						
		ICFの理解	講義	1			15						
		福祉用具と福祉機器	演習	1							15		

科目区分	科目名	講義形態	必修	選択	1年		2年		3年		4年		卒業要件
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
経営の基礎	地域医療連携とチーム医療	講義		2					30				必修を含む 6単位以上
	地域活性化と地域医療	講義		2					30				
	福祉サービスの組織と経営	講義	2							30			
	介護施設経営	講義	2								30		
専門科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義		2							30		必修を含む 48単位以上
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2			30							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2				30						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	講義		2				30					
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	講義		2					30				
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	講義		2						30			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	講義		2							30		
	精神医学と精神医療Ⅰ	講義	2						30				
	精神医学と精神医療Ⅱ	講義	2							30			
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	講義		2		30							
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	講義		2			30						
	精神保健福祉の原理Ⅰ	講義		2			30						
	精神保健福祉の原理Ⅱ	講義		2				30					
	精神保健福祉制度論	講義		2					30				
	精神障害リハビリテーション論	講義		2							30		
	医療的ケア	講義		2								30	
	終末期ケアとソーシャルワーク	講義		2							30		
	認知症ケア論	講義		2							30		
	経営管理論	講義		2						30			
	人的資源管理論	講義		2					30				
	医療管理総論	講義		2				30					
	医療安全・臨床倫理	講義		2						30			
	持続可能社会と地域医療福祉経営	講義		2						30			
	地域連携実践	演習		2					30				
	ソーシャル・ビジネス	講義		2						30			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	1				30						
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	2					60					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	1						30				
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習		1							30		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(精神)	演習		1					30				
	ソーシャルワーク演習Ⅵ(精神)	演習		1						30			
	ソーシャルワーク演習Ⅶ(精神)	演習		1							30		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習		1				30					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習		2					30	30			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(精神)	演習		1						30			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(精神)	演習		2							30	30	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習		6					135	135			
	ソーシャルワーク実習Ⅱ(精神)	実習		5							110	115	
総合科目	基礎演習	演習	2		30	30							
	専門演習Ⅰ	演習	2						30	30			
	専門演習Ⅱ	演習	2								30	30	
	卒業研究	演習		4							60	60	

履修の手引き 2023

発行日 2023 年 4 月

発 行 日本医療大学

■保健医療学部（月寒本キャンパス）

看護学科／リハビリテーション学科
（理学療法学専攻・作業療法学専攻）／

診療放射線学科／臨床検査学科／臨床工学科

〒062-0053 札幌市豊平区月寒東 3 条 11 丁目 1 番 50 号

TEL：011-351-6100（代表）

■総合福祉学部（真栄キャンパス）

介護福祉マネジメント学科／ソーシャルワーク学科

〒004-0839 札幌市清田区真栄 434-1 アンデルセン福祉村

TEL：011-885-7711（代表）

